

# OPTIMIZE

**MERCURY QUALITY CENTER™**

VERSION 9.0

インストール・ガイド

**MERCURY™**

BUSINESS TECHNOLOGY OPTIMIZATION



# Mercury Quality Center™

インストール・ガイド

Version 9.0

---

**MERCURY™**

## Mercury Quality Center インストール・ガイド, Version 9.0

本マニュアル、付属するソフトウェアおよびその他の文書の著作権は、米国および国際著作権法によって保護されており、それらに付随する使用契約書の内容に則する範囲内で使用できます。Mercury Interactive Corporation のソフトウェア、その他の製品およびサービスの機能は次の 1 つまたはそれ以上の特許に記述があります。米国特許番号 5,511,185; 5,657,438; 5,701,139; 5,870,559; 5,958,008; 5,974,572; 6,137,782; 6,138,157; 6,144,962; 6,205,122; 6,237,006; 6,341,310; 6,360,332; 6,449,739; 6,470,383; 6,477,483; 6,549,944; 6,560,564; 6,564,342; 6,587,969; 6,631,408; 6,631,411; 6,633,912; 6,694,288; 6,738,813; 6,738,933; 6,754,701; 6,792,460 および 6,810,494。オーストラリア特許番号 763468 および 762554。その他の特許は米国およびその他の国で申請中です。権利はすべて弊社に帰属します。

Mercury, Mercury Interactive, Mercury のロゴ, Mercury Interactive のロゴ, LoadRunner, WinRunner, SiteScope および TestDirector は、Mercury Interactive Corporation の商標であり、特定の司法管轄内において登録されている場合があります。上記の一覧に含まれていない商標についても、Mercury が当該商標の知的所有権を放棄するものではありません。

その他の企業名、ブランド名、製品名の商標および登録商標は、各所有者に帰属します。Mercury は、どの商標がどの企業または組織の所有に属するかを明記する責任を負いません。

Mercury では、補足情報を探すのに役立つサードパーティの Web サイトへの外部リンクを提供しています。サイトの内容および利用の可・不可は予告なしに変更される場合があります。Mercury はサイトの内容および利用の可・不可に関していかなる表明および保証を行うものではありません。

Mercury Interactive Corporation  
379 North Whisman Road  
Mountain View, CA 94043  
Tel: (650) 603-5200  
Toll Free: (800) TEST-911  
Customer Support: (877) TEST-HLP  
Fax: (650) 603-5300

© 2006 Mercury Interactive Corporation, All rights reserved

本書に関するご意見、ご要望は [documentation@mercury.com](mailto:documentation@mercury.com) まで電子メールにてお送りください。

---

# 目次

<b>本書へようこそ</b> .....	v
本書の構成 .....	v
文書ライブラリ .....	vii
その他のオンライン・リソース .....	ix
文書の更新 .....	x
表記規則 .....	xi
<b>第1章 インストールの前に</b> .....	1
Quality Center の技術について .....	1
インストール作業の流れ .....	4
Quality Center と Quality Center Starter Edition の機能の比較 .....	5
Quality Center のシステム構成 .....	6
Quality Center Starter Edition のシステム構成 .....	9
Citrix の構成 .....	11
以前に作成したプロジェクトの使用 .....	12
テキスト検索の設定 .....	12
<b>第2章 Quality Center のインストール</b> .....	13
クラスタ環境におけるファイル・システム・リポジトリのマウント .....	14
Quality Center のインストール .....	15
<b>第3章 Quality Center Starter Edition のインストール</b> .....	41
<b>第4章 作業の開始</b> .....	63
Quality Center プログラム・フォルダについて .....	63
Quality Center サービスの開始と停止 .....	64
Quality Center の開始 .....	65
<b>第5章 Quality Center アドインのインストール</b> .....	71
<b>第6章 IIS の設定の確認</b> .....	75
IIS アカウント設定 .....	75
Quality Center 仮想ディレクトリの設定 .....	78

<b>第 7 章 Quality Center のカスタマイズ</b> .....	81
<b>第 8 章 Quality Center のアンインストール</b> .....	83
Windows からの Quality Center のアンインストール .....	83
Linux または Solaris からの Quality Center のアンインストール .....	84
ワークステーションからの Quality Center コンポーネントの アンインストール .....	84

---

# 本書へようこそ

機能テストにかかわる作業を統合し、テスト管理を自動化する企業規模で利用可能な Mercury アプリケーション TestDirector for Quality Center へようこそ。Quality Center は、品質ライフサイクルの全体にわたって、テストの専門知識を共有し、再利用することを可能にします。品質管理にかかわる個々のプロセスのニーズに応じた適応と拡張が容易な、カスタマイズ可能なワークフローを提供します。

## 本書の構成

本書では、Quality Center のシステム要件およびインストール・プロセスについて説明します。

以下の各章で構成されています。

### 第 1 章 インストールの前に

製品の概要について説明し、Quality Center をインストールするためのサーバおよびクライアントの設定を指定します。また、Quality Center Starter Edition の概要も説明します。

### 第 2 章 Quality Center のインストール

Quality Center のインストール方法について説明します。

### 第 3 章 Quality Center Starter Edition のインストール

Quality Center Starter Edition のインストール方法について説明します。

## **第 4 章 作業の開始**

Quality Center プログラム・フォルダの内容，Quality Center サービスの起動と停止の方法，Quality Center へのログイン方法について説明します。

## **第 5 章 Quality Center アドインのインストール**

Mercury 製のテスト・ツールおよびサードパーティー製の同期ツールやバージョン管理ツールとの Quality Center 統合機能のインストール方法について説明します。

## **第 6 章 IIS の設定の確認**

IIS (Microsoft Internet Information Services) コンポーネントの設定の確認方法について説明します。

## **第 7 章 Quality Center のカスタマイズ**

Quality Center モジュールの名前，さまざまなリンク，[ツール] メニュー，および [ヘルプ] メニューをカスタマイズする方法について説明します。

## **第 8 章 Quality Center のアンインストール**

サーバ・マシンから Quality Center をアンインストールする方法，およびクライアント・アプリケーションをアンインストールする方法について説明します。



## 文書ライブラリ

文書ライブラリは、Quality Center の使用方法を説明するオンライン・ヘルプ・システムです。文書ライブラリには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- ▶ Quality Center の [ヘルプ] メニューで [**文書ライブラリ**] をクリックし、文書ライブラリのホーム・ページを開きます。このホーム・ページでは、主なヘルプ・トピックへのクイック・リンクが含まれます。
- ▶ Quality Center の [ヘルプ] メニューで [**このページのヘルプ**] をクリックして、現在のページを説明するトピックへの文書ライブラリを開きます。

### 文書ライブラリ・ガイド

文書ライブラリは、オンライン、PDF 形式、またはその両方で使用できる、次のガイドおよびリファレンスで構成されています。PDF の表示や印刷には、Adobe Reader を使用します。Adobe Reader は Adobe 社の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp>) からダウンロードできます。

『**はじめに**』: 文書ライブラリの使用方法および編成方法について説明していません (オンラインで使用できます)。

『**新機能**』: 最新バージョンの Quality Center における新しい機能について説明しています。Quality Center の [ヘルプ] メニューからアクセスすることもできます (オンラインおよび PDF 形式で使用できます)。

『**最初にお読みください**』: Quality Center に関する最新のお知らせと情報が含まれます。

### Quality Center ガイド

『**Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド**』: Quality Center を使用してテスト・プロセスのあらゆる段階を組織し、実行する方法について説明していません。また、要件定義、テスト計画、テスト実行、および不具合追跡を行う方法についても説明します (オンラインおよび PDF 形式で使用できます)。

『**Mercury Quality Center 管理者ガイド**』: 「サイト管理」機能を使用してプロジェクトを作成し保守する方法、および「プロジェクトのカスタマイズ」機能を使用してプロジェクトのカスタマイズを行う方法について説明します (オンラインおよび PDF 形式で使用できます)。

『**Mercury Quality Center チュートリアル**』: Quality Center を使ってアプリケーション・テスト・プロセスを管理する方法について自分のペースで学べるガイドです (PDF 形式で使用できます)。

『**Mercury Quality Center インストール・ガイド**』: クラスタ環境のサーバ・コンピュータへ、あるいはスタンド・アロン・アプリケーションとして Quality Center をインストールする方法について説明します (PDF 形式で使用できます)。

## Business Process Testing ガイド

『**Mercury Business Process Testing ユーザーズ・ガイド**』: Business Process Testing を使用して、ビジネス・プロセス・テストを作成する方法について説明します (オンラインおよび PDF 形式で使用できます)。

『**Mercury Business Process Testing チュートリアル**』: Quality Center アプリケーションにおける Business Process Testing の基本について、自分のペースで学べるガイドです (PDF 形式で使用できます)。

## API リファレンス

『**Mercury Quality Center データベース・リファレンス**』: プロジェクト・データベースのすべてのテーブルとフィールドのオンライン・リファレンスを提供します (オンラインで使用できます)。

『**Mercury Quality Center オープン・テスト・アーキテクチャ API リファレンス**』: Quality Center の COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスを提供します。Quality Center のオープン・テスト・アーキテクチャを使用して、ユーザ独自の設定管理ツール、不具合追跡ツール、および自社開発のテスト・ツールを Quality Center プロジェクトに統合できます (オンラインで使用できます)。

『**Mercury Quality Center サイト管理者クライアント API リファレンス**』: サイト管理者クライアントの COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスを提供します。サイト管理者クライアント API を使用して、独自に用意するアプリケーションから Quality Center のユーザ、プロジェクト、ドメイン、接続およびサイトの設定パラメータを編成、管理、および保守できます (オンラインで使用できます)。

『**Mercury Quality Center カスタム・テスト・タイプ・ガイド**』: 独自のテスト・ツールの作成方法および Quality Center 環境への統合方法の全体についてオンライン・ガイドを提供します (オンラインで使用できます)。

## その他のオンライン・リソース

Quality Center の [ヘルプ] メニューから、次のオンライン・リソースも使用できます。

[**ナレッジ ベース**] : 普段お使いの Web ブラウザで、Mercury のカスタマ・サポート Web サイトの Knowledge Base ページを開きます。

[**カスタマー サポート Web サイト**] : 普段お使いの Web ブラウザで、Mercury カスタマ・サポート Web サイトを開きます。このサイトでは、Mercury Support Knowledge Base の閲覧や記事の投稿が行えます。また、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの投稿や検索、サポート依頼の送信、パッチや更新された文書のダウンロードなども行えます。Mercury の Web サイトの URL は、<http://www.mercury.com/jp/services/support/> です。

[**Mercury ホーム ページ**] : 普段お使いの Web ブラウザで、Mercury のホーム・ページを表示します。このサイトでは、Mercury および Mercury 製品に関する最新の情報がご覧になれます。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマ・サポート、教育サービスなどに関する情報が含まれます。Web サイトの URL は <http://www.mercury.com/jp/> です。

[**アドイン ページ**] : Mercury 製のテスト・ツールのほか、サードパーティ製の同期およびバージョン管理ツールとの統合機能を提供する Mercury Quality Center アドイン・ページを表示します。詳細については、『**Mercury Quality Center インストール・ガイド**』を参照してください。

また、第一級の IT 環境を計画、作成、配備、管理するためのガイドラインを示す Mercury ベスト・プラクティスを参照することもできます。Mercury のベスト・プラクティスには、プロセス・ベスト・プラクティス、プロダクト・ベスト・プラクティス、およびピープル・ベスト・プラクティスの 3 種類があります。Mercury のソフトウェアのライセンスを購入されている方は、カスタマ・サポート・サイト (<http://support.mercury.com/>) から入手可能な Mercury ベスト・プラクティスを読み、使用することができます。

## 文書の更新

Mercury は、その製品の文書を新しい情報で絶えず更新しています。この文書の最新版はカスタマ・サポート Web サイト (<http://support.mercury.com>) からダウンロードできます。

次のオプションは、文書ライブラリへのアクセスがローカル・アクセス（標準設定）に設定されている場合に必要です。あるいは、Quality Center サイト管理者が、文書ライブラリへの実際の Web アクセスを設定することもできます。詳細については、『**Mercury Quality Center 管理者ガイド**』を参照してください。

**更新された文書をダウンロードするには、次の手順を実行します。**

- 1 カスタマ・サポート Web サイトで、[**Documentation**] リンクをクリックします。
- 2 [**Please Select Product**] で [**TestDirector for Quality Center**] を選択します。  
TestDirector for Quality Center が一覧に表示されていない場合は、この製品をカスタマ・プロファイルに追加する必要があります。[**My Account**] をクリックしてプロファイルを更新します。
- 3 [**Retrieve**] をクリックします。文書のページが開き、現在のリリースと以前のリリースに関する使用可能な文書がリストされます。文書が最近更新された場合、文書名の横に「**Updated**」と表示されます。
- 4 文書のリンクをクリックして、文書をダウンロードします。

## 表記規則

本書は、次の表記規則に従います。

[UI 要素]	アクションを実行する際のインタフェース要素の名前、ファイル名またはパス、および強調が必要なその他の項目は、このスタイルで示します。例：[保存] ボタンをクリックします。
引数	メソッド、プロパティ、関数の引数、書名は、このスタイルで示します。例：『Mercury ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
<置き換える値>	ファイル・パスまたは URL アドレスの中で実際の値に置き換える必要のある部分は山括弧で囲んで示します。 例：< MyProduct のインストール・フォルダ > %bin。
例	使用例やユーザがそのまま入力しなければならない文字列は、このスタイルで示します。例：エディット・ボックスに Hello と入力します。
CTRL+C	キーボードのキーはこのスタイルで示します。例：ENTER キーを押します。
関数名	メソッド名や関数名はこのスタイルで示します。例： <b>wait_window</b> ステートメントには次のパラメータがあります。
[]	省略可能な引数は、半角の大括弧で囲んで示します。
{ }	引数に割り当てる値の候補は、中括弧で囲んで示します。値をいずれか 1 つ割り当てる必要があります。
...	構文内の 3 つの点は、同じ形式で項目をさらに含めることができることを意味します。プログラミング例に含まれる場合は、何行かが意図的に省略されていることを示します。
	垂直バー（パイプ記号）は、バーで区切られているオプションのいずれかを指定しなければならないことを示します。

ようこそ

# 第 1 章

---

## インストールの前に

本章では、インストール・プロセスの概要について説明し、Quality Center および Quality Center Starter Edition をインストールするための要件を指定します。

本章では、次の項目について説明します。

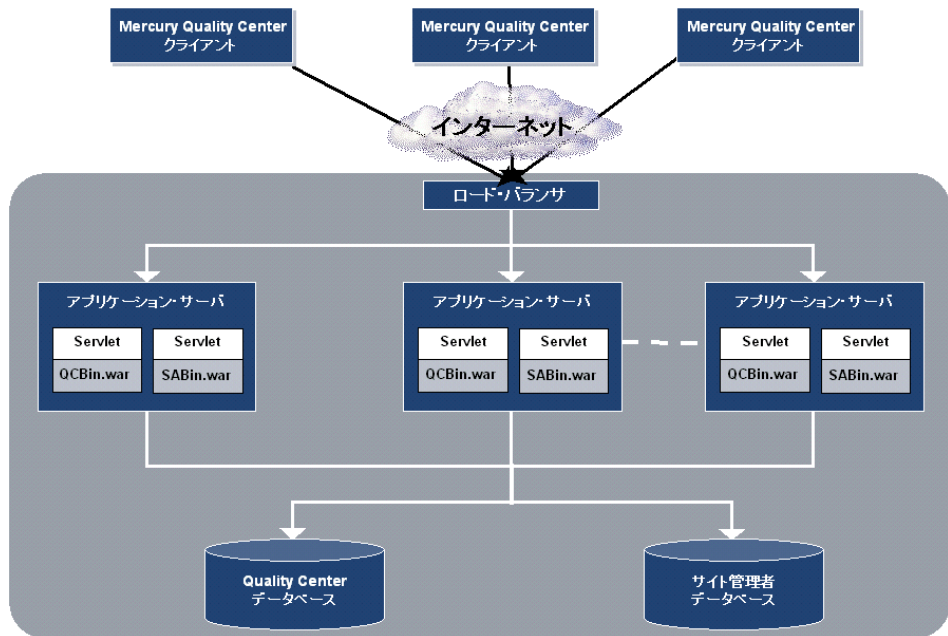
- ▶ Quality Center の技術について
- ▶ インストール作業の流れ
- ▶ Quality Center と Quality Center Starter Edition の機能の比較
- ▶ Quality Center のシステム構成
- ▶ Quality Center Starter Edition のシステム構成
- ▶ Citrix の構成
- ▶ 以前に作成したプロジェクトの使用
- ▶ テキスト検索の設定

## Quality Center の技術について

Quality Center は、Java 2, Enterprise Edition (J2EE) テクノロジーに基づいた、企業全体で利用できるアプリケーションです。J2EE テクノロジーは、コンポーネント・ベースでのエンタプライズ・アプリケーションの設計、開発、組み立て、および展開を可能にする手段を提供します。Quality Center では、J2EE フレームワークの範囲内でクラスタリングをサポートしています。クラスタとは、あたかも単独のサーバであるかのように Quality Center を実行するアプリケーション・サーバの集合です。クラスタ内の各アプリケーション・サーバは、**ノード**、もしくは**クラスタ・ノード**と呼ばれます。

クラスタは、最大限のスケーラビリティと高い可用性を確実に実現できるように、ミッション・クリティカルなサービスを提供します。クラスタ内では、ロードバランシング技術を利用して、クライアントからの要求を複数のアプリケーション・サーバに分散させることで、任意の数のユーザに対応して規模を容易に拡大できるようにしています。サーバのクラスタは Windows, Linux, および Solaris のプラットフォームで動作します。

次の図に、Quality Center クライアントの要求がクラスタ内でどのように転送されるのかを示します。



- ▶ **Mercury Quality Center クライアント**：ユーザが、クライアント・マシンから Quality Center またはサイト管理にログインすると、クライアント・コンポーネントがクライアント・マシンにダウンロードされます。Quality Center は、コンポーネント間のプロセス間通信の手段として COM (コンポーネント・オブジェクト・モデル) インタフェースを使用します。
- ▶ **インターネット**：クライアント要求は、HTTP プロトコルに埋め込まれてサーバに転送されます。
- ▶ **ロード・バランサ**：ロード・バランサを使用すると、クライアント要求はロード・バランサに転送され、クラスタ内のサーバの利用状況に応じて分散されます。



- ▶ **アプリケーション・サーバ**：クライアント要求は、サブレットから、アプリケーション・サーバに展開されている Quality Center アプリケーションに渡されます。Quality Center は、JBoss, WebLogic, および WebSphere をサポートしています。

展開されているアプリケーションには、Quality Center, サイト管理, および Web アプリケーション・アーカイブ・ファイル (WAR) としてパッケージ化された関連ファイルが含まれます。Quality Center からのクライアント要求は **QCBin.war** ファイルに渡されます。サイト管理からのクライアント要求は **SABin.war** ファイルに渡されます。

JDBC (Java Database Connectivity) インタフェースは、アプリケーション・サーバとデータベースの間の通信に使用されます。

- ▶ **データベース**： **QCBin.war** ファイルへのクライアント要求は、Quality Center スキーマに格納されます。Quality Center スキーマには、プロジェクト情報が格納されます。 **SABin.war** ファイルへのクライアント要求は、サイト管理スキーマに記録されます。サイト管理スキーマには、ドメイン、プロジェクト、およびユーザ・データが格納されます。これらのスキーマは、Oracle または Microsoft SQL Server に置くことが可能です。

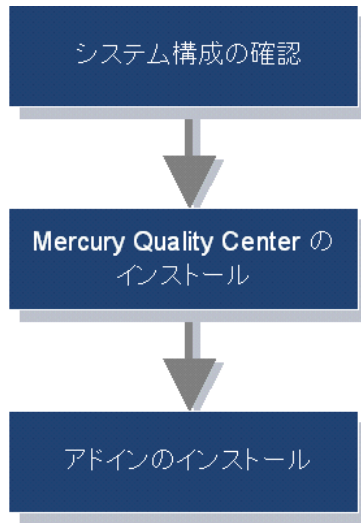
---

**注**：Quality Center Starter Edition を使用している場合は、クラスタリングはサポートされません。Quality Center Starter Edition は、JBoss アプリケーション・サーバおよび MSDE データベース・サーバで動作します。詳細については、5 ページ「Quality Center と Quality Center Starter Edition の機能の比較」を参照してください。

---

## インストール作業の流れ

Quality Center は、次の手順でインストールします。



### システム構成の確認

Quality Center をインストールする前に、サーバ・マシンおよびクライアント・マシンがハードウェアおよびソフトウェアの要件を満たしていることを確認します。詳細については、6 ページ「Quality Center のシステム構成」を参照してください。

Quality Center Starter Edition のシステム仕様を確認する方法については、9 ページ「Quality Center Starter Edition のシステム構成」を参照してください。

Citrix を使用している場合は、Citrix のシステム仕様を確認します。詳細については、11 ページ「Citrix の構成」を参照してください。

### Quality Center のインストール

Quality Center をサーバにインストールします。詳細については、第2章「Quality Center のインストール」を参照してください。

Quality Center Starter Edition のインストール方法については、第3章「Quality Center Starter Edition のインストール」を参照してください。

## アドインのインストール

Quality Center アドインをインストールして既存の機能を拡張できます。詳細については、第5章「Quality Center アドインのインストール」を参照してください。

## Quality Center と Quality Center Starter Edition の機能の比較

Quality Center またはその簡略版である初心者向けの Quality Center Starter Edition をインストールできます。Quality Center と同様、Starter Edition にも要件、テスト計画、テストのラボ、不具合の各モジュールが用意されています。カスタマイズ機能、およびサイト管理機能も用意されていますが、[DB サーバ] タブは利用できません。

次の表に Starter Edition と Quality Center の比較を示します。

サポート項目	Quality Center	Quality Center Starter Edition
プラットフォーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows</li> <li>• Solaris</li> <li>• Linux</li> </ul>	Windows
アプリケーション・サーバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JBoss</li> <li>• WebLogic</li> <li>• WebSphere</li> </ul>	JBoss
Web サーバ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IIS</li> <li>• JBoss</li> <li>• Apache</li> <li>• WebLogic</li> <li>• WebSphere</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IIS</li> <li>• JBoss</li> </ul>
データベース	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle</li> <li>• Microsoft SQL</li> <li>• MSDE</li> </ul>	MSDE
クラスタリング	対応	非対応
最大ユーザ数	ライセンスによる	5

サポート項目	Quality Center	Quality Center Starter Edition
カスタマイズ機能および サイト管理機能	すべての機能をサポート	[DB サーバ] タブはサ ポートされていない
Business Process Testing	対応	非対応

Quality Center のインストールの詳細については、6 ページ「Quality Center のシステム構成」および 13 ページ「Quality Center のインストール」を参照してください。

Quality Center Starter Edition のインストールの詳細については、9 ページ「Quality Center Starter Edition のシステム構成」および 41 ページ「Quality Center Starter Edition のインストール」を参照してください。

## Quality Center のシステム構成

本項では、Quality Center のサーバおよびクライアントのシステム構成について説明します。

### サーバのシステム構成

Windows, Linux および Solaris に Quality Center をインストールするためのサーバのシステム構成は次のとおりです。

<b>CPU</b>	<b>Windows :</b> Pentium 4 <b>Linux :</b> Pentium 4 <b>Solaris :</b> UltraSPARC-III+ / 900 MHz
<b>メモリ (RAM)</b>	1 GB 以上
<b>空きディスク容量</b>	3 GB 以上
<b>データベース</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Oracle 9.2.0.5 Enterprise Edition</li> <li>• Oracle 10.0g Release 1 または 2 Standard/Enterprise Edition</li> <li>• Microsoft SQL Server 2000 Standard/Enterprise Edition</li> <li>• MSDE 2000 (メモリの上限は 2 GB に制限。最大 5 コンカレント・ユーザをサポート。)</li> </ul>

オペレーティング・システム	アプリケーション・サーバ	Java 仮想マシン	Web サーバ
<b>Windows 2000 Server Service Pack 4</b> または <b>Windows 2003 Server Service Pack 1 Standard/Enterprise Edition</b>	JBoss 4.0 (Quality Center に含まれる)	JVM 1.4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IIS 5.0 または 6.0</li> <li>• JBoss 4.0</li> <li>• Apache 2.0.54</li> </ul>
	WebLogic 8.1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• BEA JRockit 1.4.2_04-8130</li> <li>• Sun SDK 1.4.2_04</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• WebLogic 8.1.5</li> <li>• Apache 2.0.54</li> </ul>
	WebSphere 5.1.1	IBM Java 1.4.1_06	WebSphere 5.1.1
<b>Red Hat EnterpriseLinux AS/ES バージョン 4</b>	JBoss 4.0 (Quality Center に含まれる)	JVM 1.4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JBoss 4.0</li> <li>• Apache 2.0.54</li> </ul>
	WebLogic 8.1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• BEA JRockit 1.4.2_04-8130</li> <li>• Sun SDK 1.4.2_04</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• WebLogic 8.1.5</li> <li>• Apache 2.0.54</li> </ul>
	WebSphere 5.1.1	IBM Java 1.4.1_06	WebSphere 5.1.1
<b>Solaris 9 OE</b>	JBoss 4.0 (Quality Center に含まれる)	JVM 1.4.2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JBoss 4.0</li> <li>• Apache 2.0.54</li> </ul>
	WebLogic 8.1.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• BEA JRockit 1.4.2_04-8130</li> <li>• Sun SDK 1.4.2_04</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• WebLogic 8.1.5</li> <li>• Apache 2.0.54</li> </ul>
	WebSphere 5.1.1	IBM Java 1.4.1_06	WebSphere 5.1.1

## クライアントのシステム構成

Quality Center のクライアントのシステム構成は次のとおりです。

<b>CPU</b>	Pentium II/333 MHz またはそれ以上のマイクロプロセッサ
<b>メモリ (RAM)</b>	256 MB 以上
<b>空きディスク容量</b>	300 MB 以上
<b>オペレーティング・システム</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Windows 2000 Server/Professional Service Pack 4</li><li>• Windows XP Professional/Home Edition Service Pack 2</li></ul> <p><b>注：</b>Quality Center を Mercury 製の他のテスト・ツールと統合する場合は、クライアント・マシンの DCOM 権限を変更する必要があります。詳細については、TestDirector for Quality Center Knowledge Base (US サイト：<a href="http://support.mercury.com">http://support.mercury.com</a>) を参照し、Problem ID 33501 を検索してください。</p>
<b>ブラウザ</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Internet Explorer 6.0 (Service Pack 1)</li><li>• Quality Center Explorer</li></ul>

## Quality Center Starter Edition のシステム構成

本項では、Quality Center Starter Edition のサーバおよびクライアントのシステム構成について説明します。

### サーバのシステム構成

Windows に Quality Center Starter Edition をインストールするためのサーバのシステム構成は次のとおりです。

<b>CPU</b>	Pentium 4
<b>メモリ (RAM)</b>	1 GB 以上
<b>空きディスク容量</b>	3 GB 以上
<b>オペレーティング・システム</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows 2000 Server Service Pack 4</li> <li>• Windows 2003 Server Service Pack 1 Standard/Enterprise Edition</li> <li>• Windows XP Professional Edition Service Pack 2</li> </ul>
<b>Java 仮想マシン</b>	JVM 1.4.2
<b>アプリケーション・サーバ</b>	JBoss 4.0 (Quality Center のセットアップ中にインストール)
<b>Web サーバ</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• IIS 5.0 または 6.0</li> <li>• JBoss 4.0</li> </ul>
<b>データベース</b>	MSDE 2000 (Quality Center のセットアップ中にインストール。メモリの上限は 2 GB に制限。最大 5 コンカレント・ユーザをサポート。)

## クライアントのシステム構成

Quality Center Starter Edition のクライアントのシステム構成は次のとおりです。

<b>CPU</b>	Pentium II/333 MHz またはそれ以上のマイクロプロセッサ
<b>メモリ (RAM)</b>	256 MB 以上
<b>空きディスク容量</b>	300 MB 以上
<b>オペレーティング・システム</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Windows 2000 Server/Professional Service Pack 4</li><li>• Windows XP Professional/Home Edition Service Pack 2</li></ul> <p><b>注：</b>Quality Center を Mercury 製の他のテスト・ツールと統合する場合は、クライアント・マシンの DCOM 権限を変更する必要があります。詳細については、TestDirector for Quality Center Knowledge Base (US サイト：<a href="http://support.mercury.com">http://support.mercury.com</a>) を参照し、Problem ID 33501 を検索してください。</p>
<b>ブラウザ</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>• Microsoft Internet Explorer 6.0 (Service Pack 1)</li><li>• Quality Center Explorer</li></ul>



## Citrix の構成

Citrix で Quality Center または Quality Center Starter Edition を実行するには、次の構成が必要です。

<b>Citrix サーバ</b>	次のオペレーティング・システムで動作する MetaFrame XP FR3 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows 2000 Server Service Pack 4</li> <li>• Windows Server 2003 Standard/Enterprise Edition</li> </ul>
<b>Citrix クライアント</b>	次のオペレーティング・システムで動作する Program Neighborhood バージョン 8 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Windows 2000 Server/Professional Service Pack 4</li> <li>• Windows XP Professional/Home Edition Service Pack 2</li> <li>• Solaris 9 OE</li> <li>• Red Hat Linux 9.0</li> </ul>
<b>Quality Center サーバ</b>	すべての環境をサポート

Citrix の構成の詳細については、TestDirector for Quality Center Knowledge Base (US サイト : <http://support.mercury.com>) の Problem ID 38333 を参照してください。

## 以前に作成したプロジェクトの使用

Quality Center 9.0 をインストールした後に、TestDirector 7.6 または 8.0 のプロジェクトを使用するには、まずプロジェクトを Quality Center 9.0 に移行する必要があります。プロジェクトの移行は、Quality Center 9.0 の移行ツールを使って行います。

Quality Center 8.0 または 8.2 のプロジェクトを使用するには、プロジェクトを Quality Center 9.0 にアップグレードする必要があります。アップグレードするには、Quality Center 9.0 サイト管理を使用します。

詳細については、『**Mercury Quality Center 管理者ガイド**』を参照してください。

## テキスト検索の設定

テキスト検索は、テキスト検索機能が Oracle データベース・サーバにインストールされて設定されている場合にのみ使用できます。Oracle 10 の場合、テキスト検索機能は組み込まれています。Oracle 9i の場合、Oracle データベース・サーバにテキスト検索機能をインストールして設定する必要があります。Microsoft SQL 2000 では、テキスト検索機能はサポートされていません。

詳細については、TestDirector for Quality Center Knowledge Base (US サイト : <http://support.mercury.com>) の Problem ID 43393 を参照してください。

# 第 2 章

---

## Quality Center のインストール

本章では、Windows、Linux および Solaris に Quality Center 9.0 をインストールする方法について説明します。

Quality Center は単一ノードに、またはクラスタとしてインストールできます。Quality Center をクラスタ・ノードにインストールする場合、すべてのノードが同一でなければなりません。たとえば、すべてのノードで同じアプリケーション・サーバ、オペレーティング・システム、Quality Center ディレクトリ、およびサイト管理データベースを使用する必要があります。また、すべてのノードに同じバージョンの Quality Center をインストールする必要があります。

---

**注：**データベースは一次ノードへの Quality Center のインストール時にセットアップされるため、Quality Center をクラスタの二次ノードにインストールするときにはセットアップは不要です。このインストール手順で説明するダイアログ・ボックスのいくつかは、一次ノードにのみ必要です。二次ノードにインストールする場合には表示されません。

---

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ クラスタ環境におけるファイル・システム・リポジトリのマウント
- ▶ Quality Center のインストール

## クラスタ環境におけるファイル・システム・リポジトリのマウント

Solaris または Linux のクラスタ環境を使用する場合、Quality Center のインストールを始める前にファイル・システム・リポジトリをマウントする必要があります。ファイル・システム・リポジトリのマウントにはキャッシュ・メカニズムを使用しないでください。

**Linux** においてファイル・システム・リポジトリをマウントするには、次の手順を実行します。

- ▶ **NFS マウント** : NFS マウントを使用する場合には、**/etc/fstab** ファイルを次のように変更します。

```
<ソース> <ターゲット> nfs sync,noac 0 0
```

- ▶ **SMBFS マウント** : SMBFS (Windows マシンからマウントされる) を使用する場合には、**/etc/fstab** ファイルを次のように変更します。

```
<ソース> <ターゲット> smbfs
credentials=/root/.smbpasswd,rw,gid=<GID>,uid=<UID>,
fmask=0777,dmask=0777 0 0
```

次に例を示します。

```
//qcserver/QCrepository /mnt/QCrepository smbfs
credentials=/root/.smbpasswd,rw,gid=10,uid=qcadmin,
fmask=0777,dmask=0777 0 0
```

詳細は次のとおりです。

- ▶ **//qcserver/QCrepository** はソース・パスの UNC です。
- ▶ **uid=qcadmin** はドメイン・ユーザです。qcadmin は Windows サーバのユーザでなければならず、管理者グループに属している必要があります。
- ▶ **/mnt/QCrepository** はローカル・フォルダです。

この例では、qcadmin は次のように資格情報ファイル (**/root/.smbpasswd**) で定義されていなければなりません。

```
username = qcadmin
password = < qcadmin のパスワード >
```

**/etc/samba/smb.conf** ファイルを編集し、**workgroup** 値をドメイン名に変更する必要があります (例 : MERCURY)。

**Solaris** においてファイル・システム・リポジトリをマウントするには、次の手順を実行します。

**NFS マウント** : NFS マウントを使用する場合には、**/etc/vfstab** ファイルを次のように変更します。

```
<ソース> - <ターゲット> nfs - yes sync,noac
```

## Quality Center のインストール

本項では、Quality Center 9.0 のインストール方法について説明します。

以前のバージョンを使用していた場合は、新しいバージョンをインストールする前に既存のプロジェクトをバックアップすることをお勧めします。詳細については、『**Mercury Quality Center 管理者ガイド**』を参照してください。

---

注 :

- ▶ **Apache** : Quality Center を Apache と統合するには、要求を JBoss にリダイレクトするように Apache Web サーバを手動で設定します。Quality Center のインストール CD には、適切な Apache インストール・ファイル、統合ファイル、および Quality Center を Apache に統合する方法を説明するマニュアルが含まれています。詳細については、インストール CD の **Apache Integration** ディレクトリを参照してください。
  - ▶ **Windows プラットフォーム上の Jboss** : JBoss をサービスとして実行するように設定されるユーザ・アカウントは、Quality Center のインストールに使用するユーザ・アカウントと同じである必要があります。当該ユーザは、Quality Center サーバ・マシンに対して管理者の全権限が必要です。
  - ▶ **Solaris または Linux プラットフォーム上の Jboss** : JBoss を実行するためには、フル・コントロール権限が必要です。Quality Center インストール・フォルダおよび既存の Quality Center リポジトリ・フォルダに対しても、フル・コントロール権限が必要です。
  - ▶ **WebLogic/WebSphere** : Quality Center のインストールおよび実行に使用するユーザ・アカウントには、Quality Center インストール・フォルダおよび既存の Quality Center リポジトリ・フォルダに対してすべての権限が必要です。
-

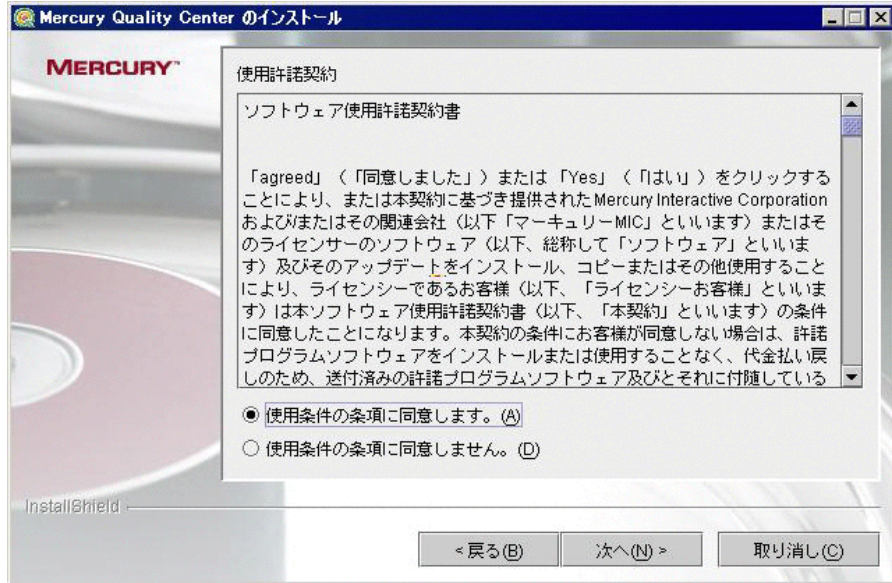
**Quality Center をインストールするには、次の手順を実行します。**

- 1 Quality Center サーバ・マシンに次の適切な権限でログインします。
  - ▶ Windows マシンの場合、管理者権限でログインします。
  - ▶ その他のオペレーティング・システムの場合、インストール・ディレクトリおよびファイル・リポジトリの読み取り、書き込み、実行権限を持つユーザとしてログインします。
- 2 Quality Center がマシンにインストールされている場合、これをアンインストールします。詳細については、第8章「Quality Center のアンインストール」を参照してください。
- 3 適切な Quality Center 9.0 インストール CD を CD ドライブに挿入し、適切なファイルを実行します。

プラットフォーム	インストール方法
<b>Windows</b>	<b>setup.exe</b> ファイルを実行します。
<b>Solaris または Linux (コンソール・モード)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris プラットフォームにインストールするには、<b>./setupSolaris.bin -console</b> と入力します。</li> <li>• Linux プラットフォームにインストールするには、<b>./setupLinux.bin -console</b> と入力します。</li> </ul>
<b>Solaris または Linux (UI モード)</b>	Quality Center ホスト・マシンで DISPLAY 環境変数が正しく設定されていること、およびインストール元のマシンで X-Server (Exceed など) が実行されていることを確認します。 Solaris プラットフォームにインストールするには、 <b>./setupSolaris.bin</b> と入力します。 Linux プラットフォームにインストールするには、 <b>./setupLinux.bin</b> と入力します。

- 4 [ようこそ] ダイアログ・ボックスが開きます。[次へ] をクリックします。

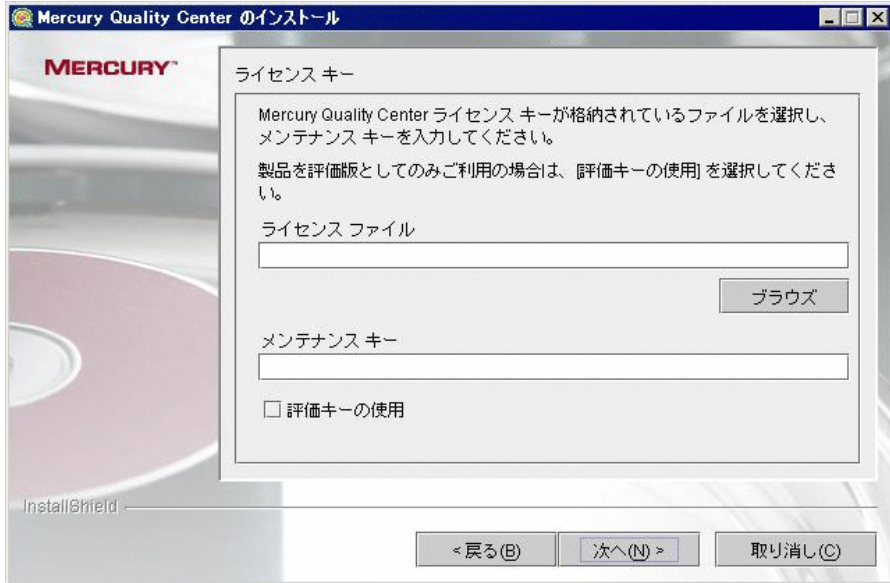
## 5 [使用許諾契約] ダイアログ・ボックスが開きます。



使用許諾契約をお読みください。使用許諾契約の条件に同意する場合は、**[使用条件の条項に同意します。]**をクリックします。

**[次へ]** をクリックします。

6 [ライセンス キー] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**ライセンス ファイル**] : Quality Center のライセンス・ファイルのパスを指定します。

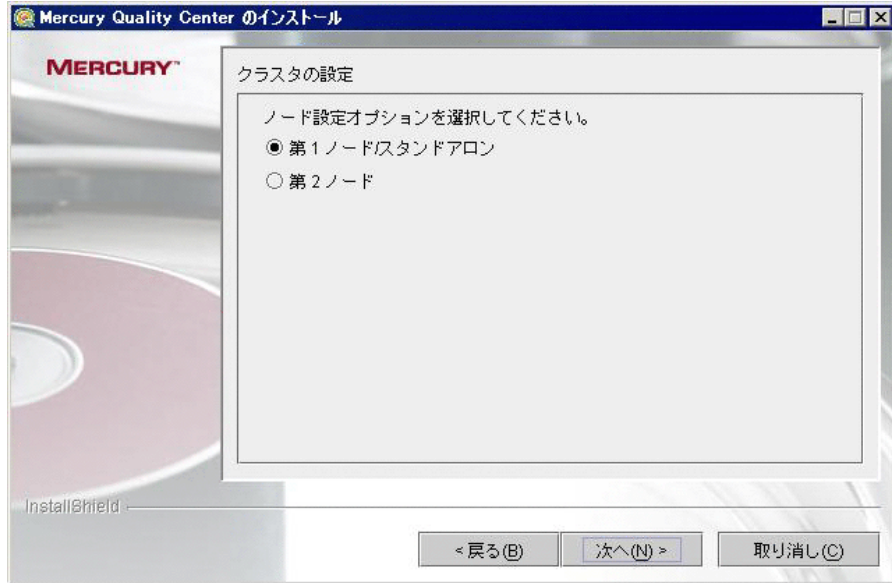
[**メンテナンス キー**] : Quality Center の購入時に入手したメンテナンス番号を入力します。

[**評価キーの使用**] : ライセンス・ファイルがない場合は、このオプションを選択すると、Quality Center Starter Edition を 30 日間試用できます。Quality Center Starter Edition のインストール方法の詳細については、第 3 章「Quality Center Starter Edition のインストール」を参照してください。

[**次へ**] をクリックします。



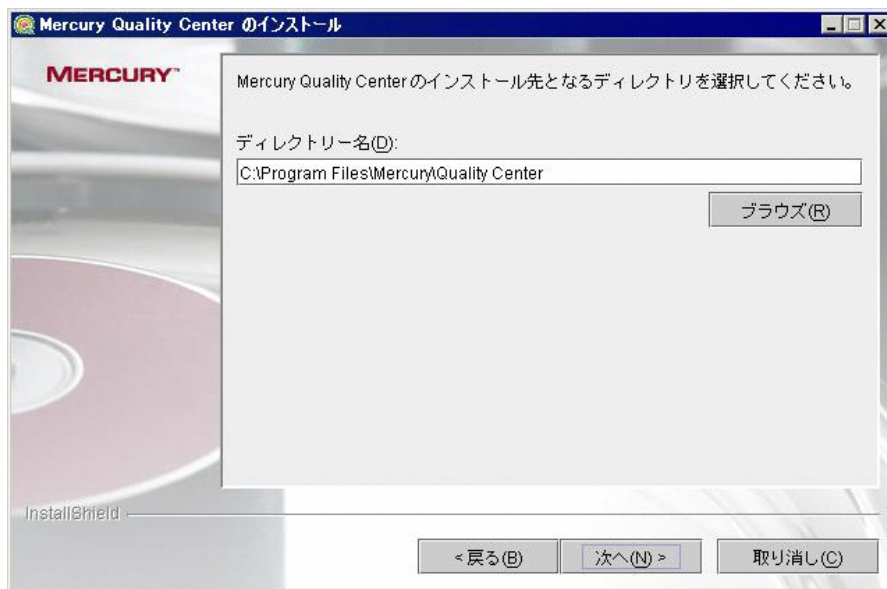
## 7 [クラスタの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



ノードの設定オプションを選択します。

- ▶ **[第1ノード/スタンドアロン]** : Quality Center をクラスタの一次ノードに、もしくはスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする場合に使用します。
  - ▶ **[第2ノード]** : 既にノードがあり、Quality Center を別のノードにインストールする場合に使用します。
- [次へ]** をクリックします。

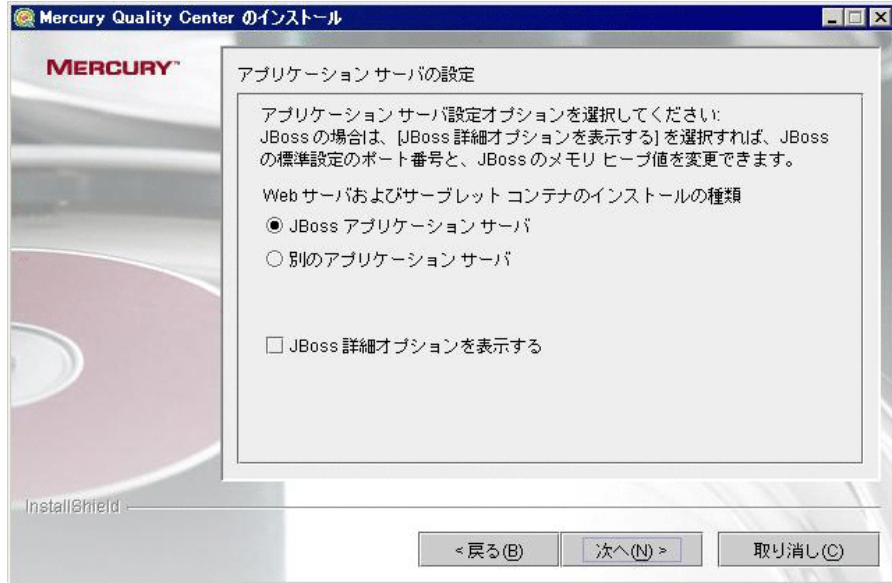
8 ディレクトリを指定するためのダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center をインストールする場所を指定します。[ブラウズ] ボタンをクリックし、サブディレクトリを選択して [OK] をクリックします。

[次へ] をクリックします。

## 9 [アプリケーション サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のアプリケーション・サーバ設定オプションのいずれかを選択します。

- ▶ **[JBoss アプリケーション サーバ]** : JBoss を使用するにはこのオプションを選択します。

標準の JBoss ポート番号または JBoss メモリ・ヒープの値を変更するには、**[JBoss 詳細オプションを表示する]** を選択します。

- ▶ **[別のアプリケーション サーバ]** : WebLogic または WebSphere を使用するにはこのオプションを選択します。

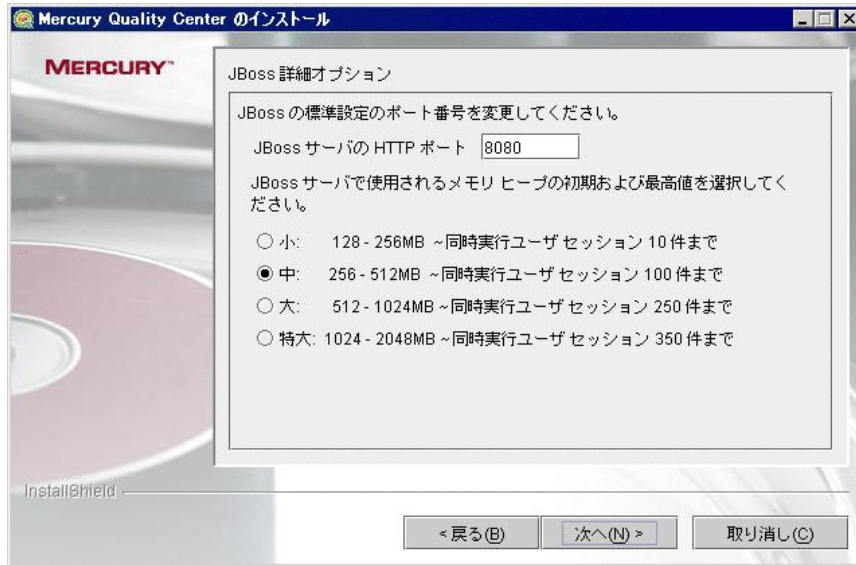
**[次へ]** をクリックします。

- 10 **[JBoss アプリケーション サーバ]** を選択した場合は、22 ページの手順 11 に進みます。

**[別のアプリケーション サーバ]** を選択した場合は、27 ページの手順 16 に進みます。

11 [JBoss 詳細オプションを表示する] を選択しなかった場合は、23 ページの手順 12 に進みます。

[JBoss 詳細オプションを表示する] を選択するか、または標準の HTTP ポートが空いていない場合、[JBoss 詳細オプション] ダイアログ・ボックスが開きます。



[JBoss サーバの HTTP ポート] ボックスで、JBoss のポート番号を変更できます。標準ポートは 8080 です。

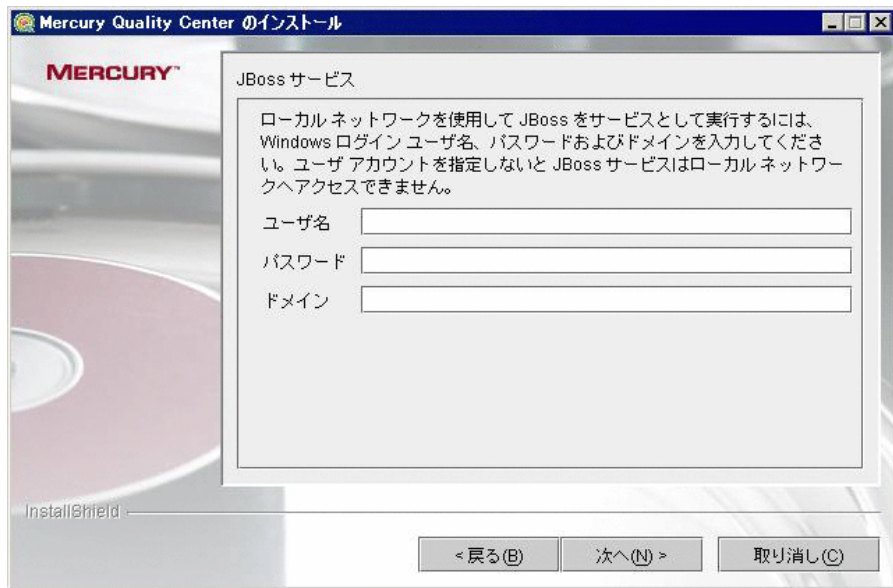
JBoss サーバで使用する初期メモリ・ヒープと最大メモリ・ヒープの値を選択します。JBoss のパフォーマンスのチューニングの詳細については、JBoss のマニュアルを参照してください。

オプション	初期ヒープ・サイズ	最大ヒープ・サイズ	推定ユーザ数
小規模	128 MB	256 MB	最大 10 件のコンカレント・ユーザ・セッション
中規模	256 MB	512 MB	最大 100 件のコンカレント・ユーザ・セッション

オプション	初期ヒープ・サイズ	最大ヒープ・サイズ	推定ユーザ数
大規模	512 MB	1024 MB	最大 250 件のコンカレント・ユーザ・セッション
特大規模	1024 MB	2048 MB	最大 350 件のコンカレント・ユーザ・セッション

[次へ] をクリックします。

- 12 [JBoss アプリケーション サーバ] を選択した場合は、[JBoss サービス] ダイアログ・ボックスが開きます。



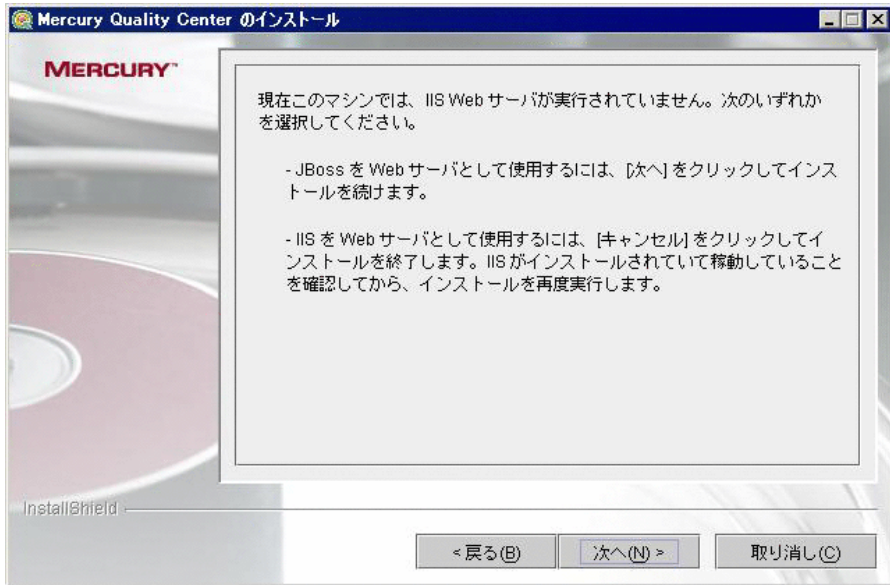
JBoss をサービスとして実行する [ユーザ名], [パスワード], [ドメイン] を入力します。これで、JBoss サービスがローカル・ネットワークにアクセスできるようになります。

ここを空のままにすると、ローカル・システム・アカウントを使用して JBoss サービスが実行されるため、JBoss サービスがローカル・ネットワークにアクセスできなくなります。

[次へ] をクリックします。

- 13 IIS Web サーバがマシンにインストールされている場合は、25 ページの手順 14 に進みます。

IIS Web サーバがマシンにインストールされていない場合は、次のダイアログ・ボックスが開きます。

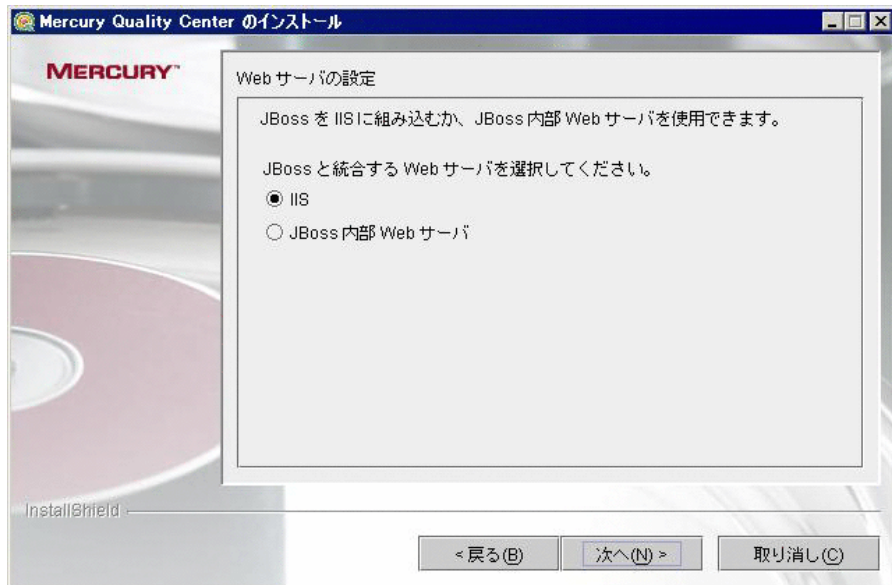


Quality Center では JBoss を IIS Web サーバまたは JBoss Web サーバと統合できます。標準設定では、Quality Center は JBoss と IIS Web サーバを統合します。

次のいずれかを選択します。

- ▶ JBoss を Web サーバとして使用するには、**[次へ]** をクリックしてインストールを続けます。27 ページの手順 16 に進みます。
- ▶ IIS を Web サーバとして使用するには、**[取り消し]** をクリックしてインストールを終了します。IIS がインストールされており、実行されていることを確認したら、インストールを再度実行します。

- 14 IIS Web サーバがマシンにインストールされていると、[Web サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



JBoss と統合する Web サーバを選択します。

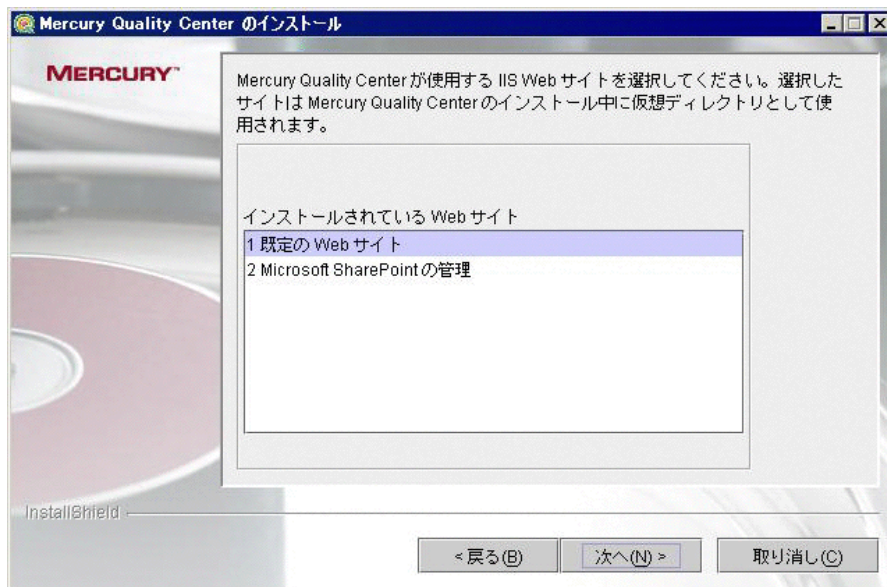
---

**注：**リモート・マシン上の IIS サーバから JBoss に要求をリダイレクトする方法の詳細については、TestDirector for Quality Center Knowledge Base (US サイト：<http://support.mercury.com>) を参照して Problem ID 37817 を検索してください。

---

[次へ] をクリックします。

- 15 [JBoss 内部 Web サーバ] を選択した場合は、27 ページの手順 16 に進みます。  
[IIS] を選択した場合は、[IIS Web サイト] ダイアログ・ボックスが開きます。

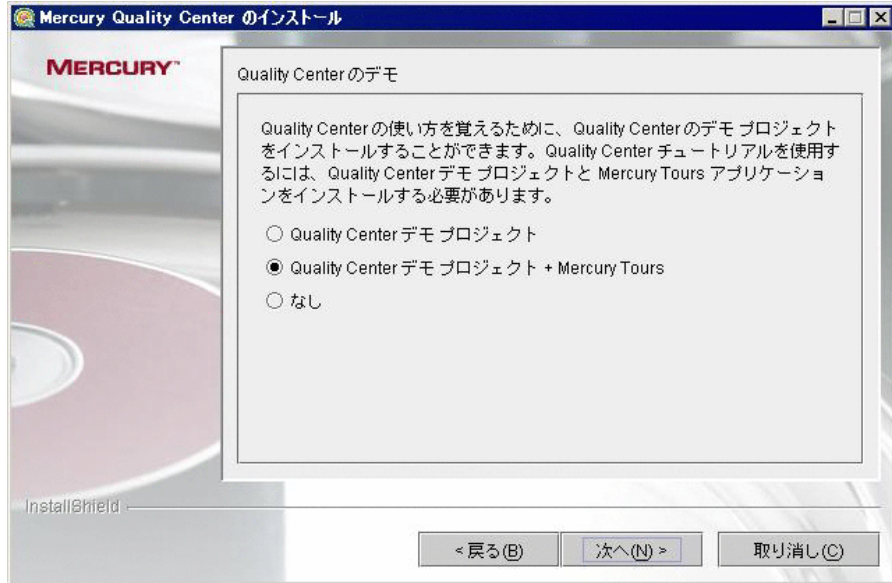


Quality Center に使用する IIS Web サイトを選択します。[既定の Web サイト] を使用することをお勧めします。

[次へ] をクリックします。



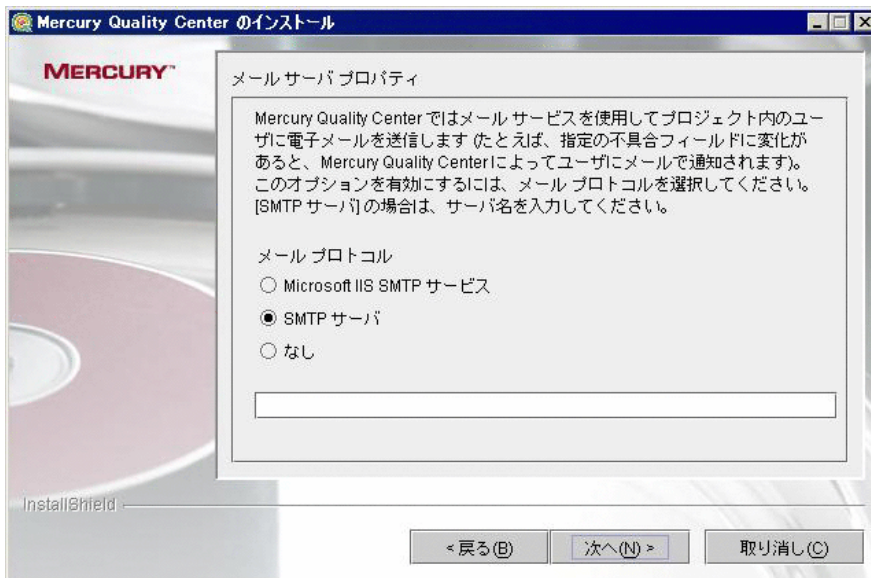
## 16 [Quality Center のデモ] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center では、これから使い始める方のために Quality Center のデモ・プロジェクトをインストールできます。Quality Center チュートリアルを使用するには、Quality Center デモ・プロジェクトと、旅行予約を受け付ける付属の Web ベースのアプリケーションのサンプルをインストールする必要があります。

[次へ] をクリックします。

17 [メール サーバ プロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center から Quality Center プロジェクトに登録されているユーザに電子メールを送信できるようにするには、メール・プロトコルを選択します。

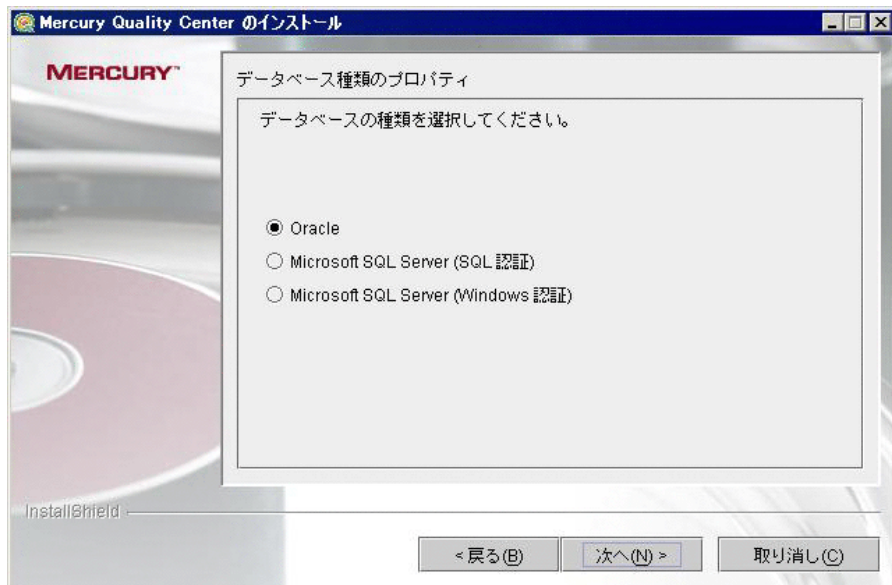
[SMTP サーバ] にはサーバ名を入力します。

[次へ] をクリックします。

注：Microsoft IIS SMTP Service を使用するには、次の手順を実行します。

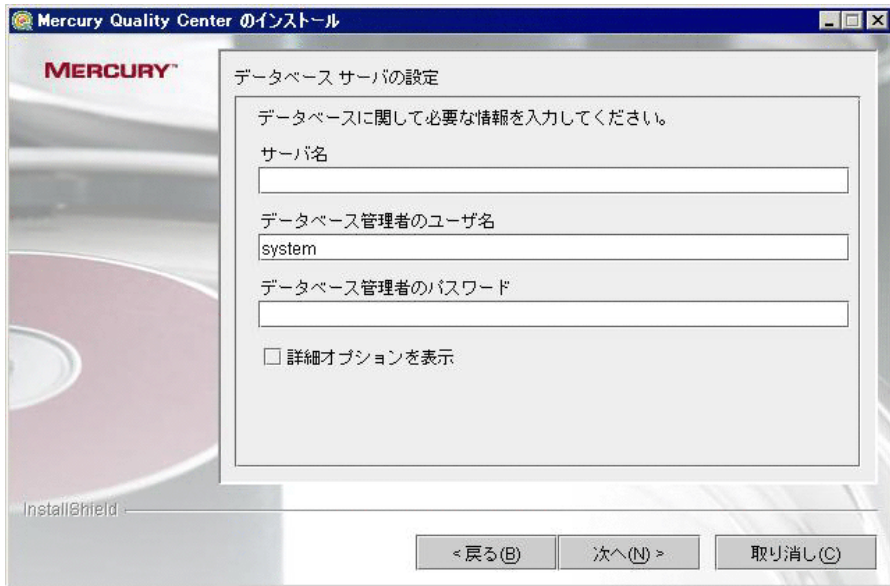
- ▶ [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウを開きます。
- ▶ ツリー表示枠で、[既定の SMTP 仮想サーバー] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[既定の SMTP 仮想サーバーのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- ▶ [アクセス] タブの中で、[接続] ボタンをクリックします。[接続] ダイアログ・ボックスが開きます。[以下のリストに含まれるコンピュータ以外のすべて] を選択し、[OK] をクリックします。
- ▶ [中継] ボタンをクリックします。[中継の制限] ダイアログ・ボックスが開きます。[以下のリストに含まれるコンピュータ以外のすべて] を選択し、[OK] をクリックします。
- ▶ [OK] をクリックして、[既定の SMTP 仮想サーバーのプロパティ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

18 [データベース種類のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。



データベースの種類を選択します。[次へ] をクリックします。

- 19 [データベース サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。

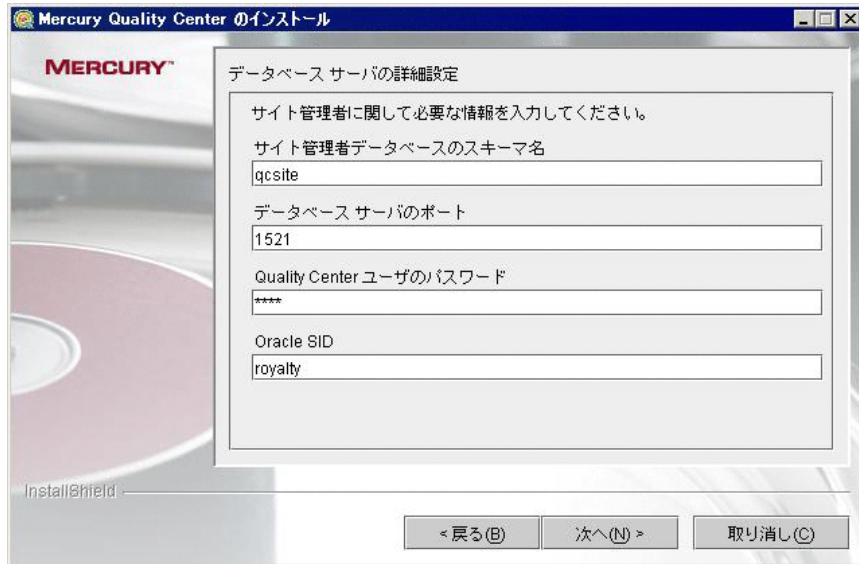


- ▶ [サーバ名] : データベース・サーバ名を入力します。
- ▶ [データベース管理者のユーザ名] : データベース管理者のユーザ名を入力します。Microsoft SQL Server (Windows 認証) には適用されません。
- ▶ [データベース管理者のパスワード] : データベース管理者のパスワードを入力します。Microsoft SQL Server (Windows 認証) には適用されません。
- ▶ [詳細オプションを表示] : データベースの種類に応じた詳細オプションを定義する場合は、このオプションを選択します。

[次へ] をクリックします。

20 [詳細オプションを表示] を選択しなかった場合は、32 ページの手順 21 に進みます。

[詳細オプションを表示] を選択した場合は、[データベース サーバの詳細設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**サイト管理者データベースのスキーマ名**]: サイト管理データベース・スキーマ名を入力します。

[**データベース サーバのポート**]: データベース・サーバのポート番号を入力します。

[**Quality Center ユーザのパスワード**]: データベース・スキーマにアクセスするための Quality Center のユーザ・パスワードを入力するか、標準設定のパスワードを受け入れます。**Microsoft SQL Server (Windows 認証)** には適用されません。

[**Oracle SID**]: Oracle のシステム ID を入力します。**Microsoft SQL Server** には適用されません。

---

注：Quality Center に必要な Oracle 権限の詳細については、TestDirector for Quality Center Knowledge Base (US サイト：<http://support.mercury.com>) を参照し、Problem ID 32903 を検索してください。

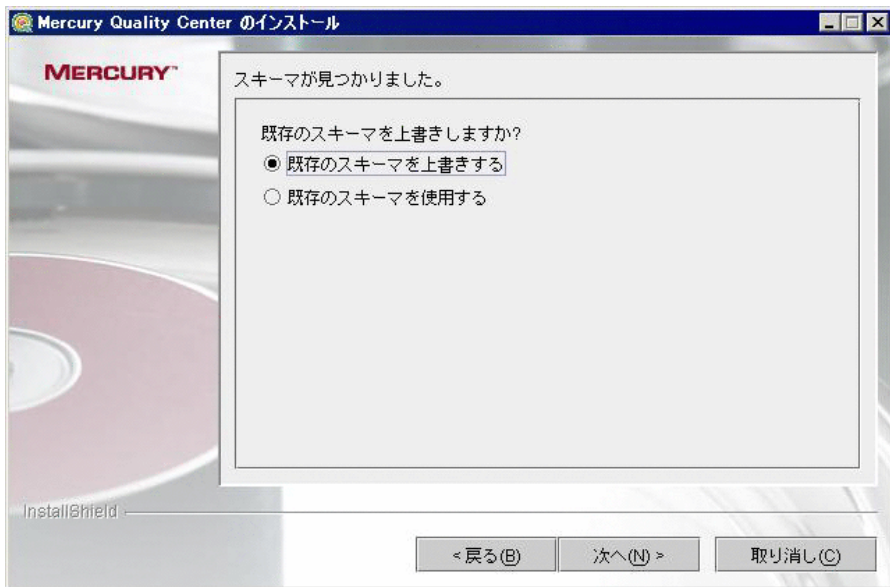
---

[次へ] をクリックします。

- 21 Oracle の場合、サイト管理データベースが存在しなければ、34 ページの手順 23 に進みます。

Microsoft SQL Server の場合、サイト管理データベースが存在しなければ、36 ページの手順 24 に進みます。

サイト管理データベースが存在する場合には、[スキーマが見つかりました。] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のいずれかを選択します。

- ▶ [既存のスキーマを上書きする]：新しいサイト管理データベースを作成します。このオプションは、既存のスキーマの内容を破棄する場合に選択します。

- ▶ **[既存のスキーマを使用する]**：既存のサイト管理データベースを使用します。このオプションは、以前のバージョンの Quality Center の使用を停止して、すべての既存のプロジェクトを Quality Center 9.0 に移動する場合に選択します。
- ▶ **[既存のスキーマをコピーする]**：既存のサイト管理データベースのコピーを作成し、1 つずつ増えていく数字を接尾辞に追加して保存します（たとえば、qcsiteadmin\_db0）。このオプションは、選択したプロジェクトを Quality Center 9.0 に移動して、以前のバージョンと現在のバージョンを同時に動作させる場合に選択します。

---

注：

[既存のスキーマをコピーする] を選択した場合、次の制限事項を考慮します。

- ▶ **プロジェクトのアップグレード**：プロジェクトを Quality Center 9.0 にアップグレードする前に、プロジェクトを無効にして、以前のバージョンのサイト管理のプロジェクト・リストから削除する必要があります。
- ▶ **Quality Center ユーザ**：Quality Center 9.0 をインストールした後、以前のバージョンの Quality Center でユーザの追加や削除、またはユーザ詳細を更新する場合、Quality Center 9.0 でも同じ変更を行う必要があります。
- ▶ **Quality Center 設定パラメータ**：Quality Center 9.0 をインストールした後、以前のバージョンの Quality Center で設定パラメータを変更する場合、Quality Center 9.0 でも同じ変更を行う必要があります。
- ▶ **サーバ・ノードの設定**：Quality Center 9.0 のサイト管理の [サーバ] タブでサーバ・ノードを使用している場合、Quality Center サーバ・ログの設定およびデータベース接続の最大数を設定しなおす必要があります。
- ▶ **Quality Center リポジトリ・パス**：以前のバージョンのリポジトリ・パスをネットワーク・パスとして定義する必要があります。
- ▶ **DATACONST テーブル**：次の定数は、DATACONST テーブルにおいてネットワーク・パスとして設定する必要があります：`db_directory`、`tests_directory`、`unix_db_directory`、および `unix_tests_directory`。
- ▶ **オペレーティング システム**：Quality Center 9.0 は、以前のバージョンの Quality Center と同じオペレーティング・システムにインストールする必要があります。

- ▶ **バージョン・コントロール** : バージョン・コントロール・プロジェクトをアップグレードする前にすべてのテストをチェックインする必要があります。
- ▶ **バージョン・コントロール** : バージョン・コントロールが以前のバージョンの Quality Center で有効になっている場合、同じバージョン・コントロールのアドインを Quality Center 9.0 サーバにインストールする必要もあります。

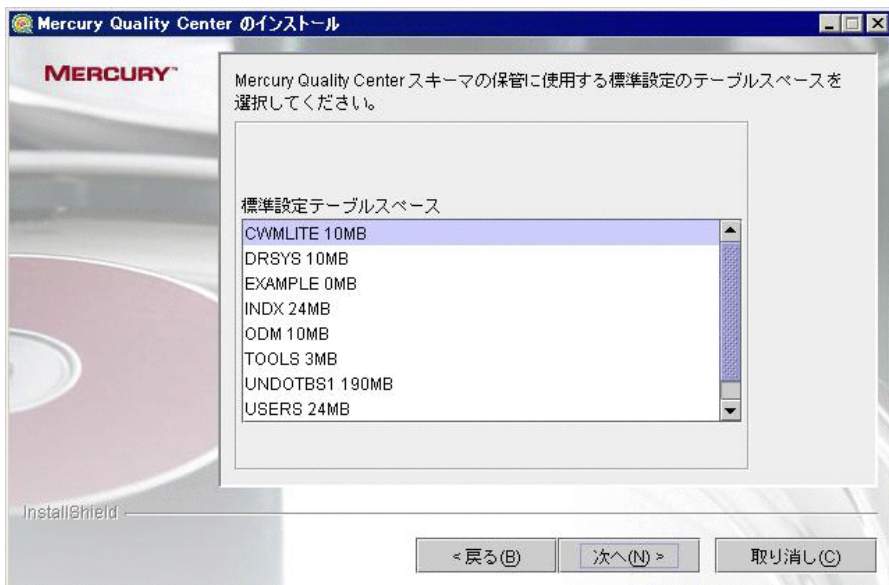
[次へ] をクリックします。

- 22 [既存のスキーマを上書きする] を選択した場合は、34 ページの手順 23 に進みます。

[既存のスキーマを使用する] または [既存のスキーマをコピーする] を選択した場合は、36 ページの手順 24 に進みます。

- 23 Microsoft SQL Server の場合、36 ページの手順 24 に進みます。

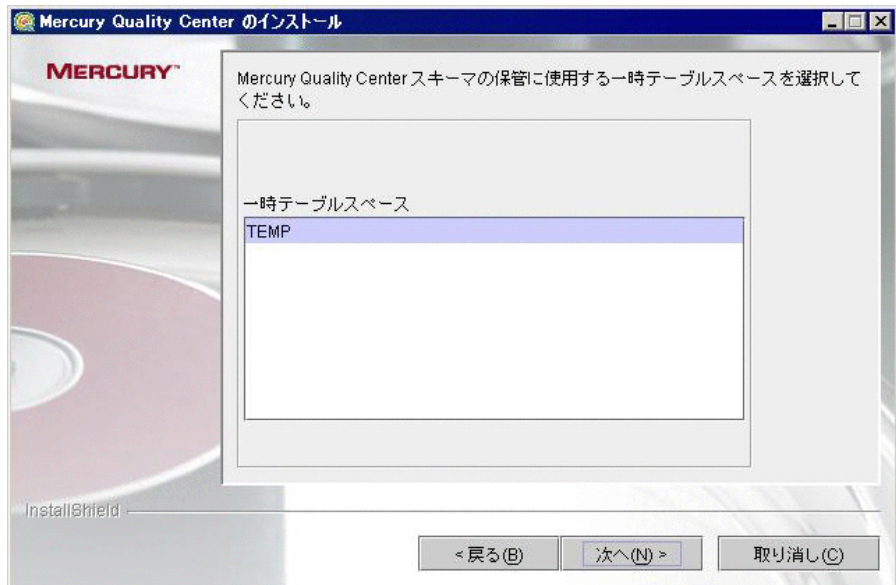
Oracle の場合、Oracle テーブルスペース選択用のダイアログ・ボックスが開きます。



[標準設定テーブルスペース] で、リストから標準設定のテーブルスペースを選択します。

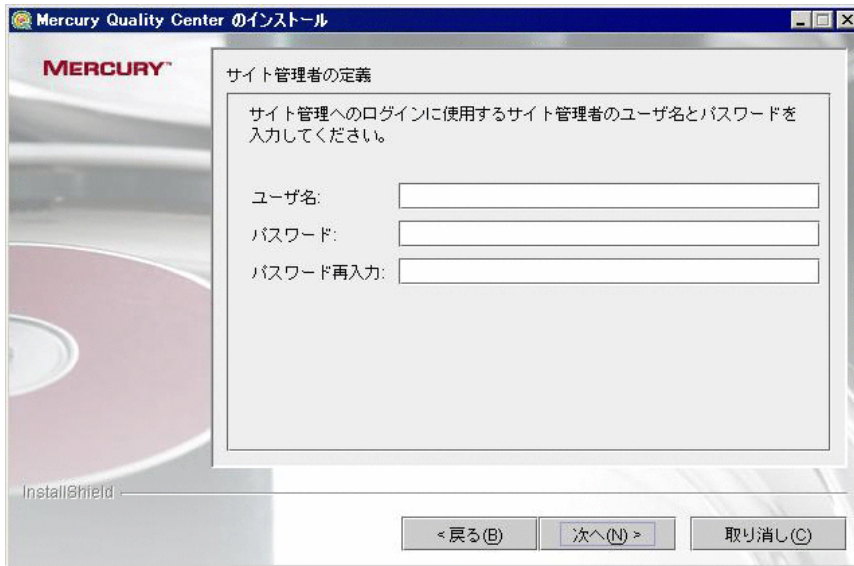


[次へ] をクリックします。Oracle 一時テーブルスペース選択用のダイアログ・ボックスが開きます。



[一時テーブルスペース] で、リストから一時テーブルスペースを選択します。  
[次へ] をクリックします。

- 24 [サイト管理者の定義] ダイアログ・ボックスが開きます。[既存のスキーマを使用する] または [既存のスキーマをコピーする] を選択した場合 (32 ページの手順 21) は、このダイアログ・ボックスの異なるバージョンが開きます。



サイト管理に初めてログインするときには、このダイアログ・ボックスで定義するサイト管理者名とパスワードを使用します。後でサイト管理において、サイト管理者の変更や別のサイト管理者の追加ができます。

- ▶ [ユーザ名]：サイト管理者のユーザ名を入力します。
- ▶ [パスワード]：サイト管理者のパスワードを入力します。[既存のスキーマを上書きする] を選択した場合にのみ適用されます。
- ▶ [パスワード再入力]：サイト管理者のパスワードを再入力します。[既存のスキーマを上書きする] を選択した場合にのみ適用されます。

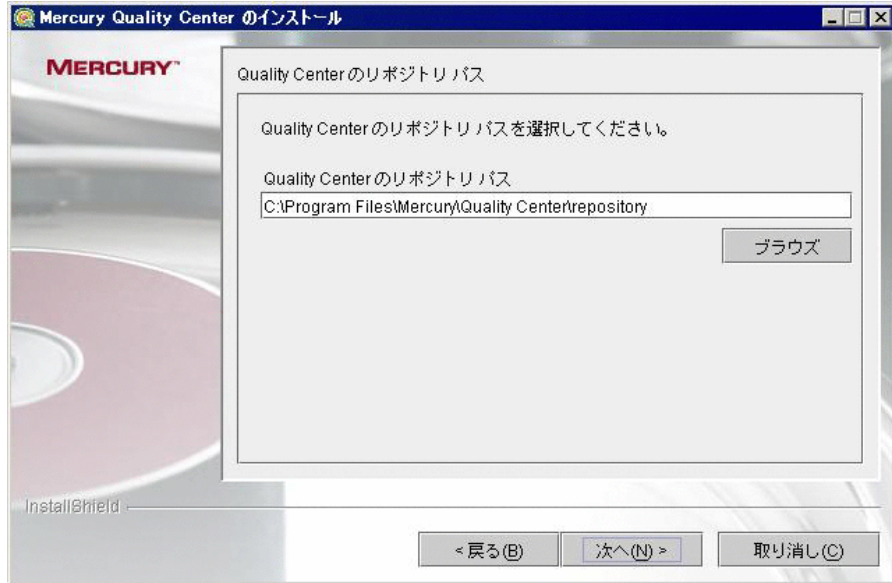
---

注：サイト管理者のユーザ名とパスワードを覚えておくことは重要です。覚えていない場合、サイト管理にログインできなくなります。

---

[次へ] をクリックします。

- 25 [Quality Center のリポジトリ パス] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**Mercury Quality Center のリポジトリ パス**] ボックスの中で、[ブラウズ] ボタンをクリックしてレポジトリ・パスを選択します。

[**既存のスキーマをコピーする**] を選択した場合 (32 ページの手順 21) は、指定したリポジトリ・パスが既存のパスと同じではありません。異なるパスを指定する必要があります。

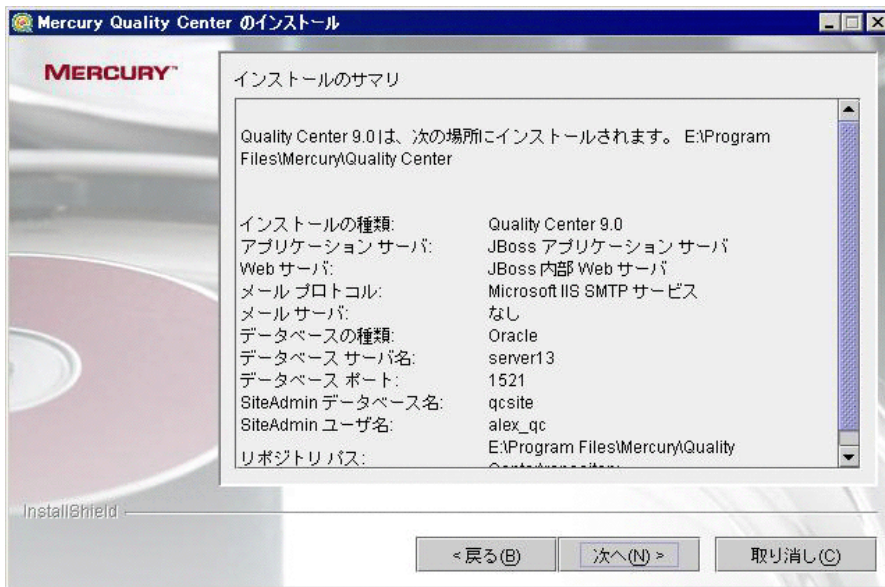
---

**注：** クラスタ・ノードを使用するには、すべてのノードがこのパスにアクセスできる必要があります。

---

[**次へ**] をクリックします。

26 [インストールのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。

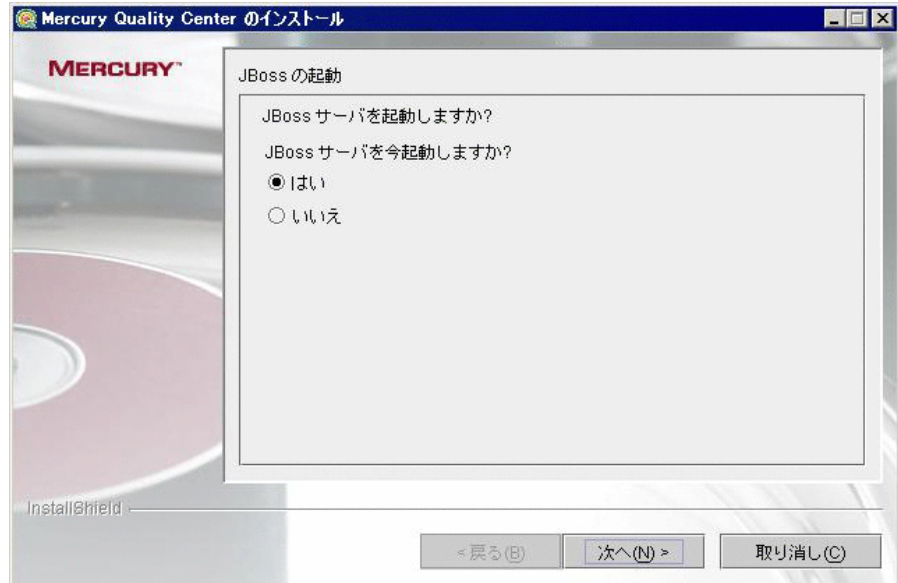


設定の確認や変更を行うには、**[戻る]** をクリックします。

設定を確定してインストール処理を開始するには、**[次へ]** をクリックします。  
インストール処理が開始されます。

27 アプリケーション・サーバが JBoss 以外なら、手順 28 に進みます。

アプリケーション・サーバが JBoss ならば、[JBoss の起動] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のいずれかを選択します。

- ▶ **[はい]** : すぐに JBoss サーバを起動します。
- ▶ **[いいえ]** : 後で JBoss サーバを手動で起動します。

[**次へ**] をクリックします。

- 28 インストール処理が完了すると、[インストールの終了] ダイアログ・ボックスが開きます。**[完了]** をクリックします。

---

**注：**JBoss を使用している場合、Quality Center がアプリケーション・サーバに自動的に配備されます。別のアプリケーション・サーバを使用している場合、Quality Center を手動で配備する必要があります。手動で配備する方法の詳細については、TestDirector for Quality Center Knowledge Base (US サイト：<http://support.mercury.com>) を参照してください。WebLogic の場合は、Problem ID 35712 を検索してください。WebSphere の場合は、Problem ID 38493 を検索してください。

---

- 29 コンピュータを再起動するように求められた場合、後でコンピュータを再起動することもできますが、Quality Center の設定または使用の前にコンピュータを再起動する必要があります。また、コンピュータの再起動は、統合アドインなどの Quality Center の関連ファイルをインストールする前に行う必要があります。

---

**注：**再起動を求められたら、できるだけ早くコンピュータを再起動することを強くお勧めします

---

- 30 Quality Center Checker を使用して、Quality Center サーバの主要コンポーネントが正しくインストールされていることを検証できます。詳細については、『Mercury Quality Center 管理者ガイド』を参照してください。

# 第 3 章

---

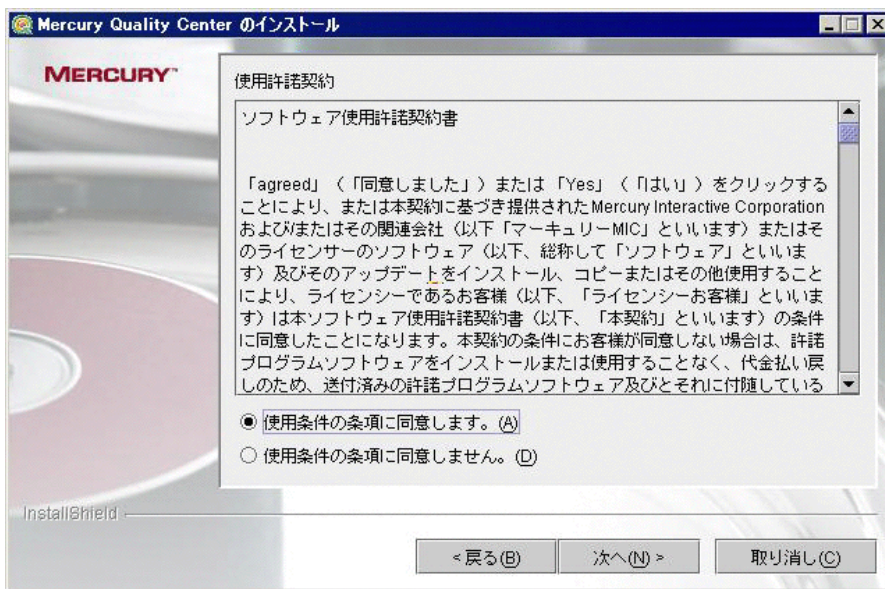
## Quality Center Starter Edition のインストール

本章では、Windows に Quality Center Starter Edition をインストールする方法について説明します。標準インストールまたはカスタム・インストールを実行できます。標準インストールでは、Quality Center を最も一般的なオプションとともにインストールします。これはほとんどのユーザ向けです。カスタム・インストールでは、インストールするオプションを選択できます。これは上級ユーザ向けです。

**Quality Center Starter Edition をインストールするには、次の手順を実行します。**

- 1 Windows マシンの場合、管理者権限でログインします。
- 2 インストール CD を CD ドライブに挿入し、**setup.exe** ファイルを実行します。
- 3 [よろこそ] ダイアログ・ボックスが開きます。[次へ] をクリックします。

4 [使用許諾契約] ダイアログ・ボックスが開きます。

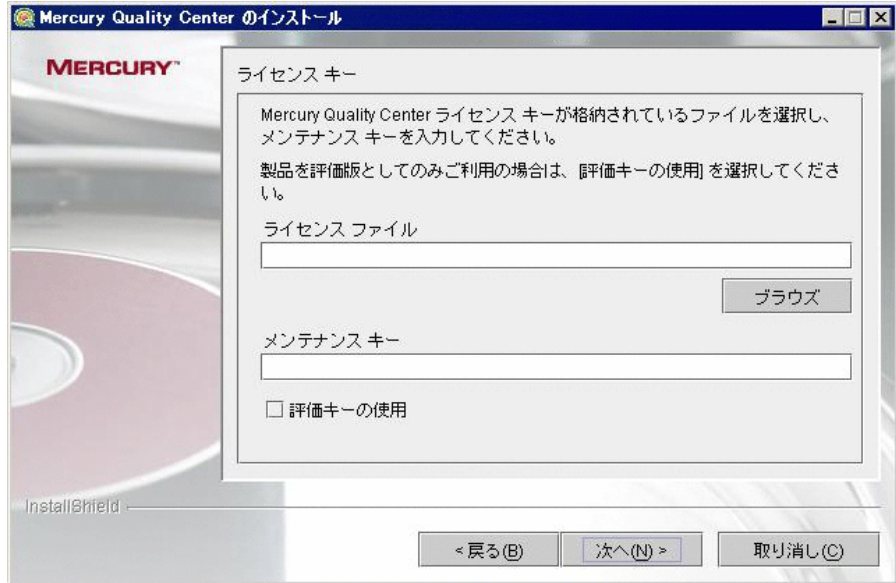


使用許諾契約をお読みください。使用許諾契約の条件に同意する場合は、**[使用条件の条項に同意します。]** をクリックします。

**[次へ]** をクリックします。



## 5 [ライセンス キー] ダイアログ・ボックスが開きます。



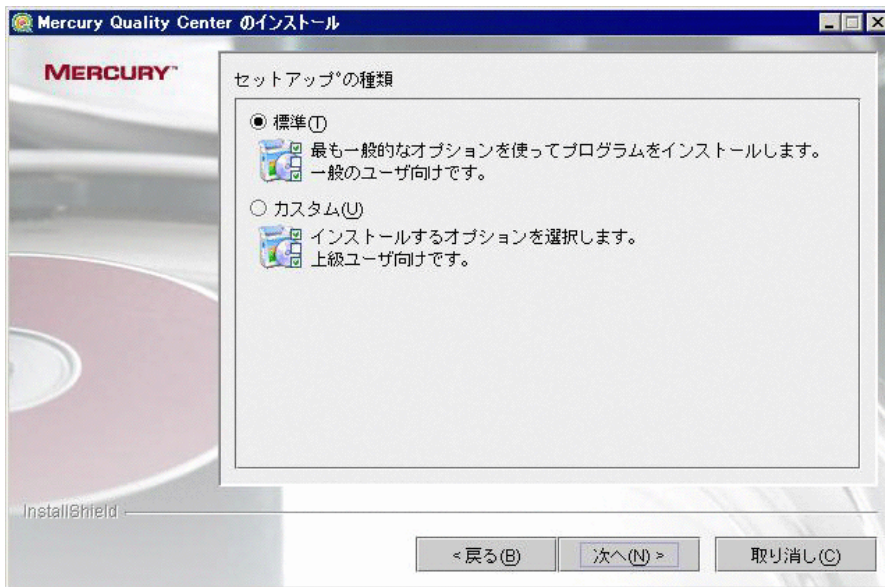
**[ライセンス ファイル]** : Quality Center Starter Edition のライセンスがある場合は、ライセンス・ファイルのパスを指定します。

**[メンテナンス キー]** : Quality Center Starter Edition の購入時に入手したメンテナンス・キーを入力します。

**[評価キーの使用]** : ライセンス・ファイルがない場合は、このオプションを選択すると、Quality Center Starter Edition を 30 日間試用できます。

**[次へ]** をクリックします。

6 [セットアップの種類] ダイアログ・ボックスが開きます。

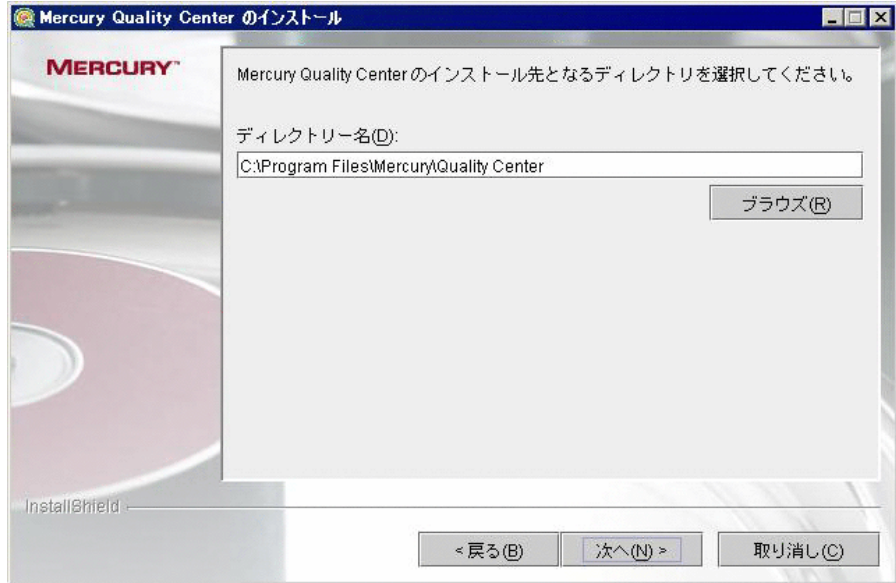


次のインストール・セットアップ・オプションからいずれか1つを選択します。

- ▶ **[標準]** : 最も一般的なオプションとともにプログラムをインストールします。ほとんどのユーザ向けです。
- ▶ **[カスタム]** : インストールするオプションを選択できます。上級ユーザ向けです。

[次へ] をクリックします。

7 [ディレクトリー名] ダイアログ・ボックスが開きます。

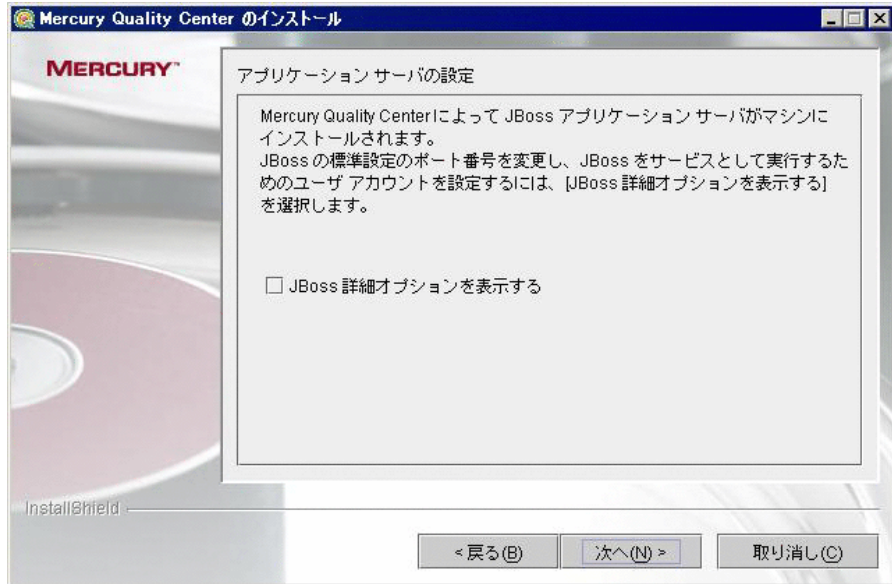


Quality Center Starter Edition をインストールする場所を指定します。[ブラウズ] ボタンをクリックし、パスを選択して [OK] をクリックします。

[次へ] をクリックします。

8 [標準] を選択した場合には、49 ページの手順 11 に進みます。

[カスタム] を選択した場合には、[アプリケーション サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



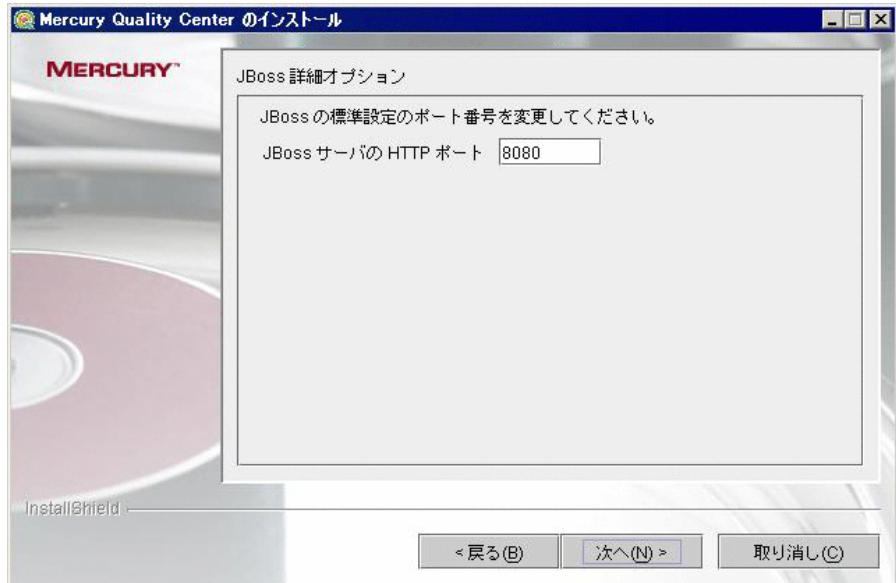
Starter Edition の場合、Quality Center はコンピュータに JBoss アプリケーション・サーバをインストールします。

[JBoss 詳細オプションを表示する] を選択すると、標準の JBoss ポート番号を変更し、JBoss をサービスとして実行するように設定できます。

[次へ] をクリックします。

9 [JBoss 詳細オプションを表示する] を選択しなかった場合は、49 ページの手順 11 に進みます。

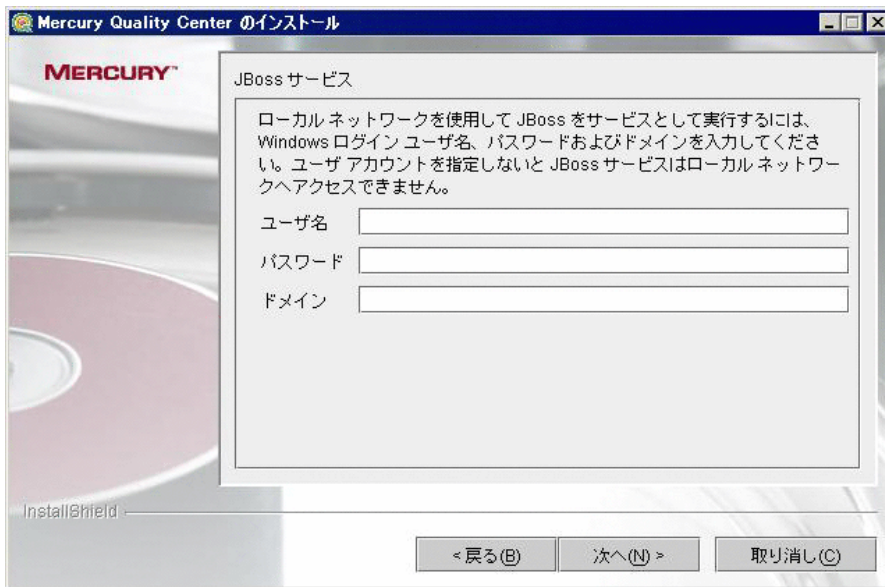
[JBoss 詳細オプションを表示する] を選択するか、または標準の JBoss ポートがすでに使用中の場合、[JBoss 詳細オプション] ダイアログ・ボックスが開きます。



[JBoss サーバの HTTP ポート] ボックスで、JBoss のポート番号を変更できます。標準ポートは 8080 です。

[次へ] をクリックします。

10 [JBoss サービス] ダイアログ・ボックスが開きます。

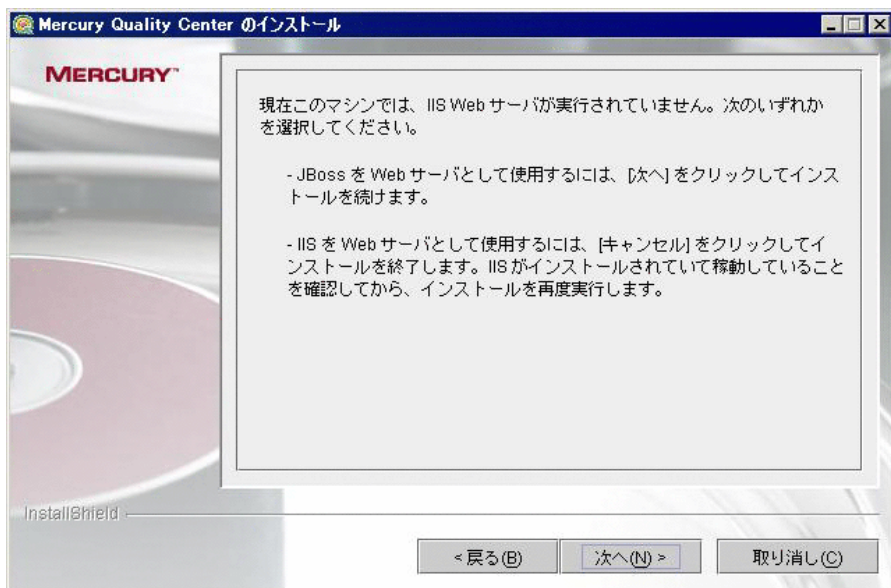


Windows ログインの [ユーザ名], [パスワード], [ドメイン] を入力して、JBoss がローカル・ネットワークを使用したサービスとして実行できるようにします。ユーザ・アカウントを指定しないと、JBoss サービスはローカル・ネットワークにアクセスできません。

[次へ] をクリックします。

- 11 IIS Web サーバがマシンにインストールされている場合は、50 ページの手順 12 に進みます。

IIS Web サーバがマシンにインストールされていない場合は、次のダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center では JBoss を IIS Web サーバまたは JBoss Web サーバと統合できます。標準設定では、Quality Center は JBoss と IIS Web サーバを統合します。

次のいずれかを選択します。

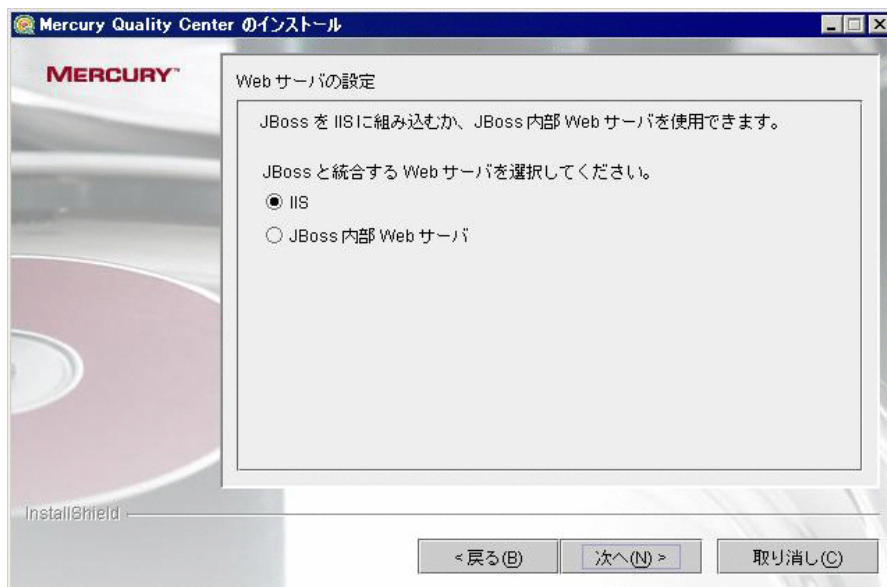
- ▶ JBoss を Web サーバとして使用するには、**[次へ]** をクリックしてインストールを続けます。

カスタム・インストールを実行している場合は、52 ページの手順 14 に進みます。

標準インストールを実行している場合は、53 ページの手順 15 に進みます。

- ▶ IIS を Web サーバとして使用するには、**[取り消し]** をクリックしてインストールを終了します。IIS がインストールされており、実行されていることを確認したら、インストールを再度実行します。

- 12 [Web サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



JBoss と統合する Web サーバを選択します。

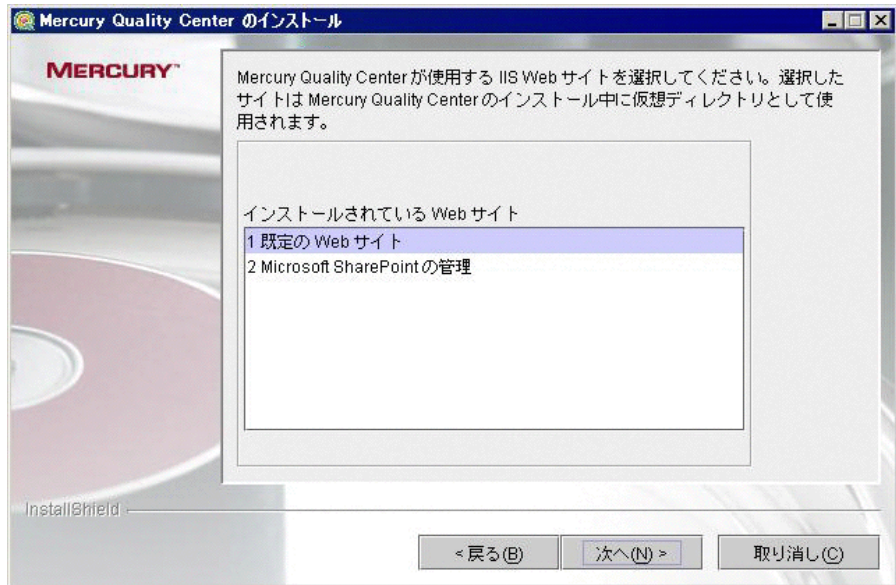
[次へ] をクリックします。



13 標準インストールを実行している場合は、53 ページの手順 15 に進みます。

カスタム・インストールを実行していて、[JBoss 内部 Web サーバ] を選択した場合は、52 ページの手順 14 に進みます。

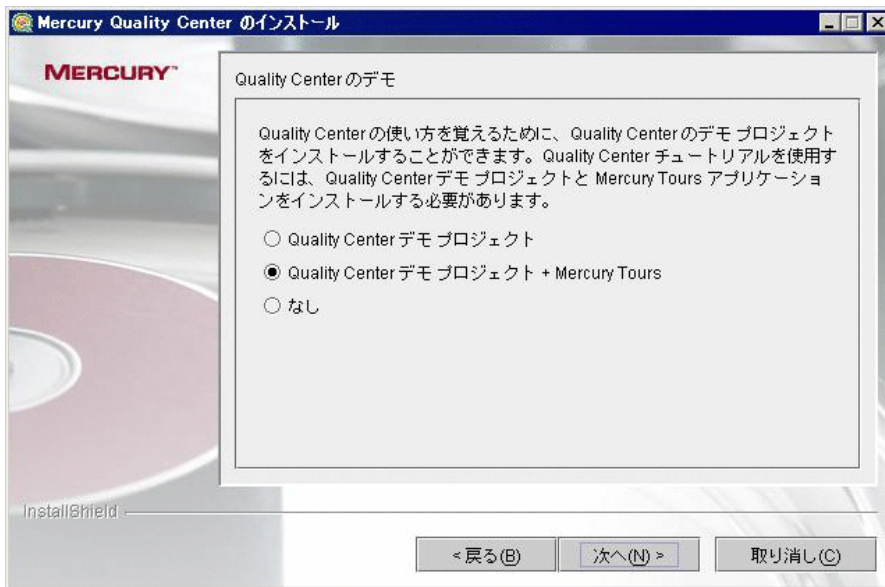
カスタム・インストールを実行していて、[IIS] を選択した場合は、[IIS Web サイト] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center に使用する IIS Web サイトを選択します。[既定の Web サイト] を使用することをお勧めします。

[次へ] をクリックします。

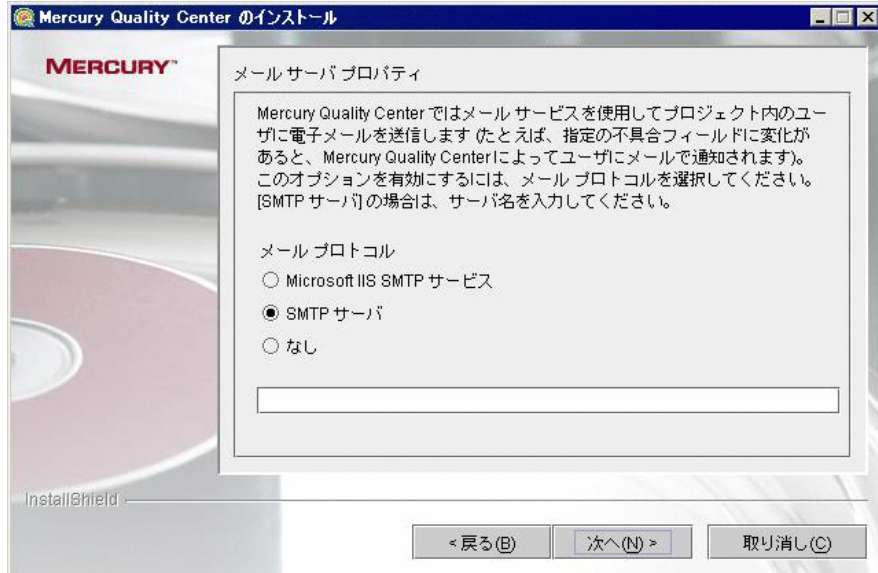
14 [Quality Center のデモ] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center では、これから使い始める方のために Quality Center のデモ・プロジェクトをインストールできます。Quality Center チュートリアルを使用するには、Quality Center デモ・プロジェクトと、旅行予約を受け付ける付属の Web ベースのアプリケーションのサンプルをインストールする必要があります。

[次へ] をクリックします。

- 15 [メール サーバ プロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center から Quality Center プロジェクトに登録されているユーザに電子メールを送信するには、メール・プロトコルを選択します。[SMTP サーバ] にはサーバ名を入力します。

[次へ] をクリックします。

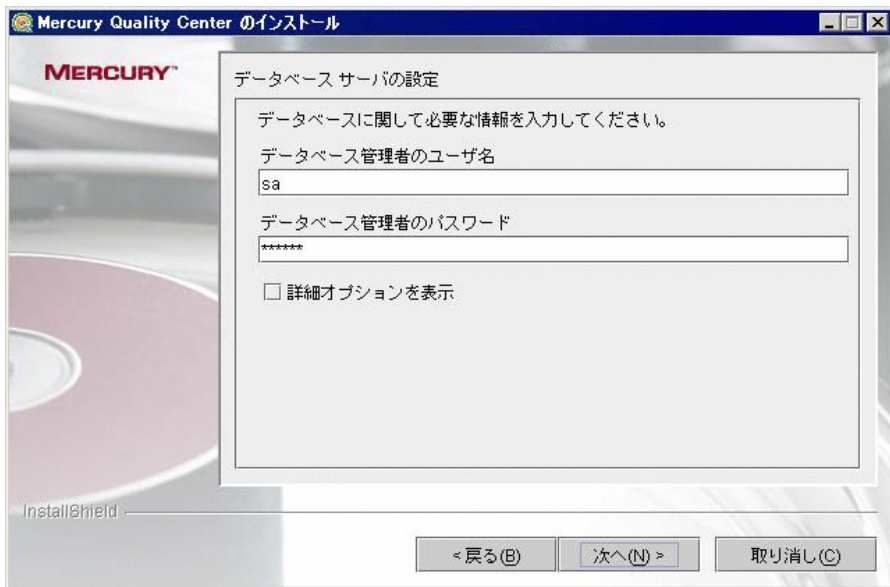
注：Microsoft IIS SMTP Service を使用するには、次の手順を実行します。

- ▶ [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウを開きます。
- ▶ ツリー表示枠で、[既定の SMTP 仮想サーバー] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[既定の SMTP 仮想サーバーのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
- ▶ [アクセス] タブの中で、[接続] ボタンをクリックします。[接続] ダイアログ・ボックスが開きます。[以下のリストに含まれるコンピュータ以外のすべて] を選択し、[OK] をクリックします。
- ▶ [中継] ボタンをクリックします。[中継の制限] ダイアログ・ボックスが開きます。[以下のリストに含まれるコンピュータ以外のすべて] を選択し、[OK] をクリックします。

- ▶ **[OK]** をクリックして、[既定の SMTP 仮想サーバーのプロパティ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

- 16 MSDE がコンピュータにインストールされていない場合は、56 ページの手順 18 に進みます。

MSDE がコンピュータにインストールされている場合、[データベース サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**データベース管理者のユーザ名**] : データベース管理者のユーザ名を入力します。

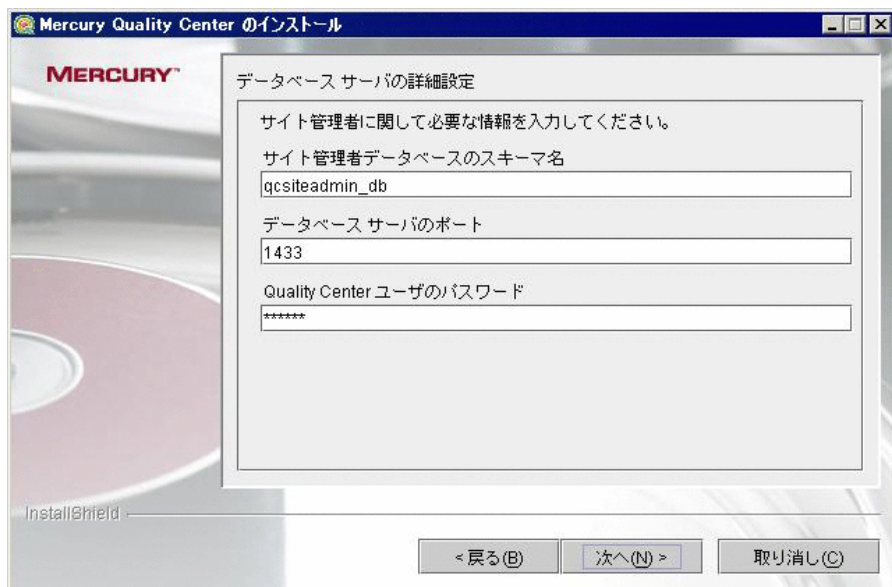
[**データベース管理者のパスワード**] : データベース管理者のパスワードを入力します。

[**詳細オプションを表示**] : サイト管理データベース名、Microsoft SQL ポート番号、および Quality Center のパスワードを変更する場合にはこのオプションを選択します。

[**次へ**] をクリックします。

17 [詳細オプションを表示] を選択しなかった場合は、56 ページの手順 18 に進みます。

[詳細オプションを表示] を選択した場合は、[データベース サーバの詳細設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



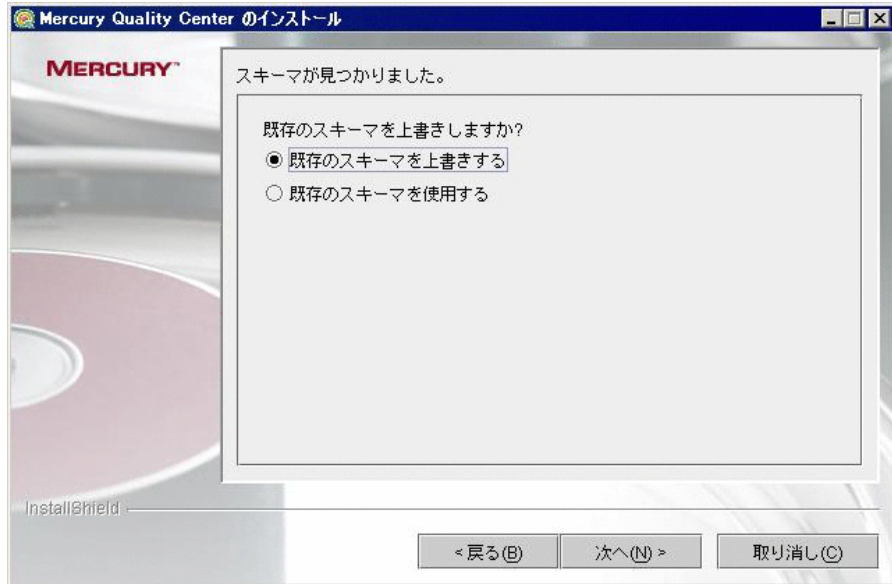
[**サイト管理者データベースのスキーマ名**] : サイト管理データベース・スキーマ名を入力します。

[**データベース サーバのポート**] : Microsoft SQL のポート番号を入力します。

[**Quality Center ユーザのパスワード**] : データベース・スキーマにアクセスするための Quality Center のユーザ・パスワードを入力するか、標準のパスワードを受け入れます。

[**次へ**] をクリックします。

- 18 サイト管理データベースが存在しない場合には、58 ページの手順 19 に進みます。サイト管理データベースが存在する場合には、[スキーマが見つかりました。] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のいずれかを選択します。

- ▶ **[既存のスキーマを上書きする]**：新しいサイト管理データベースを作成します。このオプションは、既存のスキーマの内容を破棄する場合に選択します。
- ▶ **[既存のスキーマを使用する]**：既存のサイト管理データベースを使用します。このオプションは、以前のバージョンの Quality Center の使用を停止して、すべての既存のプロジェクトを Quality Center 9.0 に移動する場合に選択します。
- ▶ **[既存のスキーマをコピーする]**：既存のサイト管理データベースのコピーを作成し、1 つずつ増えていく数字を接尾辞に追加して保存します（たとえば、qcsiteadmin\_db0）。このオプションは、選択したプロジェクトを Quality Center 9.0 に移動して、以前のバージョンと現在のバージョンを同時に動作させる場合に選択します。

---

注：

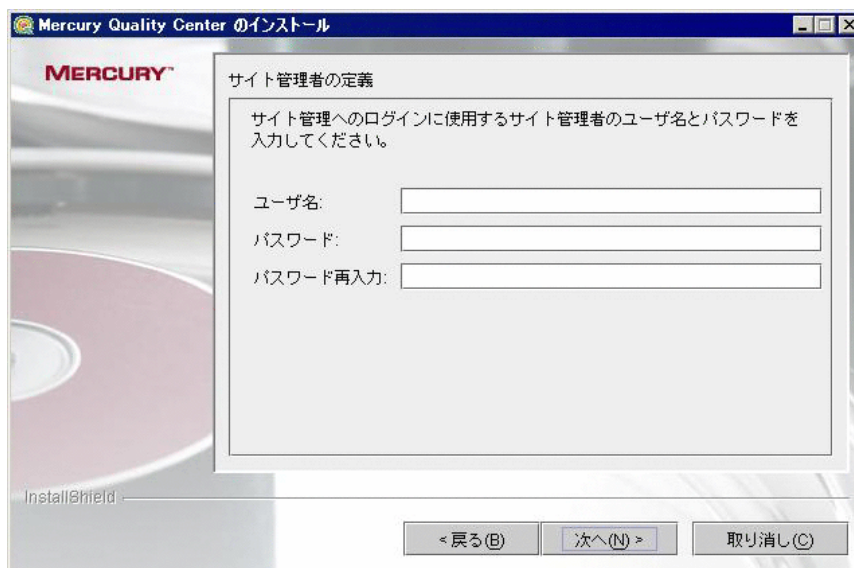
[既存のスキーマをコピーする] を選択した場合、次の制限事項を考慮します。

- ▶ **プロジェクトのアップグレード**：プロジェクトを Quality Center 9.0 にアップグレードする前に、プロジェクトを無効にして、以前のバージョンのサイト管理のプロジェクト・リストから削除する必要があります。
- ▶ **Quality Center ユーザ**：Quality Center 9.0 をインストールした後、以前のバージョンの Quality Center でユーザの追加や削除、またはユーザ詳細を更新する場合、Quality Center 9.0 でも同じ変更を行う必要があります。
- ▶ **Quality Center 設定パラメータ**：Quality Center 9.0 をインストールした後、以前のバージョンの Quality Center で設定パラメータを変更する場合、Quality Center 9.0 でも同じ変更を行う必要があります。
- ▶ **サーバ・ノードの設定**：Quality Center 9.0 のサイト管理の [サーバ] タブでサーバ・ノードを使用している場合、Quality Center サーバ・ログの設定およびデータベース接続の最大数を設定しなおす必要があります。
- ▶ **Quality Center リポジトリ・パス**：以前のバージョンのリポジトリ・パスをネットワーク・パスとして定義する必要があります。
- ▶ **DATACONST テーブル**：次の定数は、DATACONST テーブルにおいてネットワーク・パスとして設定する必要があります：`db_directory`、`tests_directory`、`unix_db_directory`、および `unix_tests_directory`。
- ▶ **オペレーティング・システム**：Quality Center 9.0 は、以前のバージョンの Quality Center と同じオペレーティング・システムにインストールする必要があります。
- ▶ **バージョン・コントロール**：バージョン・コントロール・プロジェクトをアップグレードする前にすべてのテストをチェックインする必要があります。
- ▶ **バージョン・コントロール**：バージョン・コントロールが以前のバージョンの Quality Center で有効になっている場合、同じバージョン・コントロールのアドインを Quality Center 9.0 サーバにインストールする必要もあります。

---

[次へ] をクリックします。

- 19 [サイト管理の定義] ダイアログ・ボックスが開きます。[既存のスキーマを使用する] または [既存のスキーマをコピーする] を選択した場合（56 ページの手順 18）は、このダイアログ・ボックスの異なるバージョンが開きます。



サイト管理に初めてログインするときには、このダイアログ・ボックスで定義するサイト管理者名とパスワードを使用します。後でサイト管理において、サイト管理者の変更や別のサイト管理者の追加ができます。

- ▶ [ユーザ名]：サイト管理者のユーザ名を入力します。
- ▶ [パスワード]：サイト管理者のパスワードを入力します。[既存のスキーマを上書きする] を選択した場合にのみ適用されます。
- ▶ [パスワードの再入力]：サイト管理者のパスワードを再入力します。[既存のスキーマを上書きする] を選択した場合にのみ適用されます。

---

注：サイト管理者のユーザ名とパスワードを覚えておくことは重要です。覚えていない場合、サイト管理にログインできなくなります。

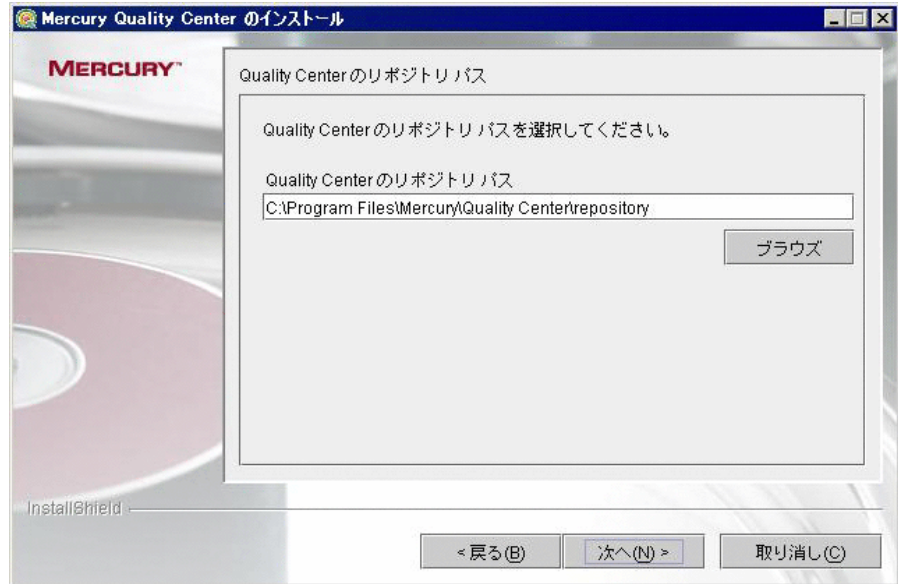
---

[次へ] をクリックします。



20 標準インストールを実行している場合は、60 ページの手順 21 に進みます。

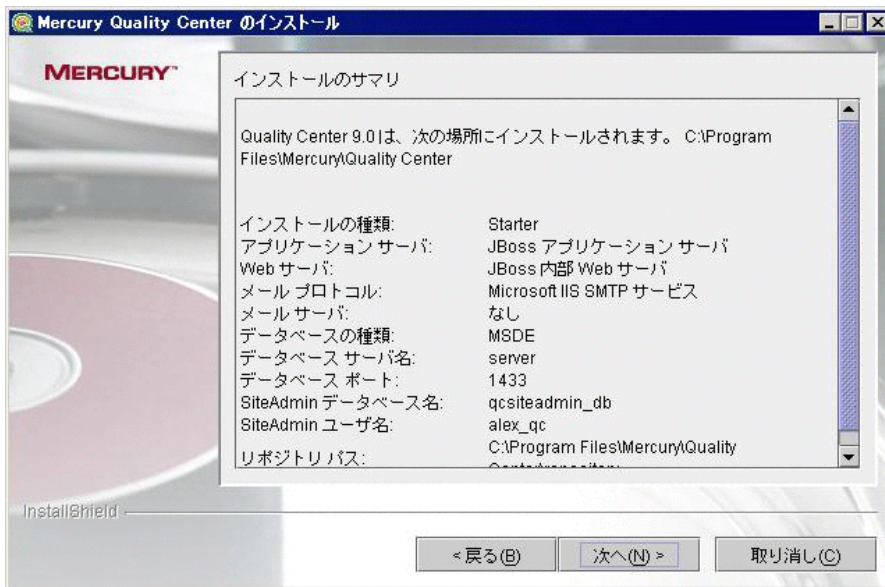
カスタム・インストールを実行している場合は、[Mercury Quality Center リポジトリパス] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center リポジトリ・パスの場所を指定します。[ブラウズ] ボタンをクリックし、リポジトリ・パスを選択して [OK] をクリックします。

[次へ] をクリックします。

21 [インストールのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。

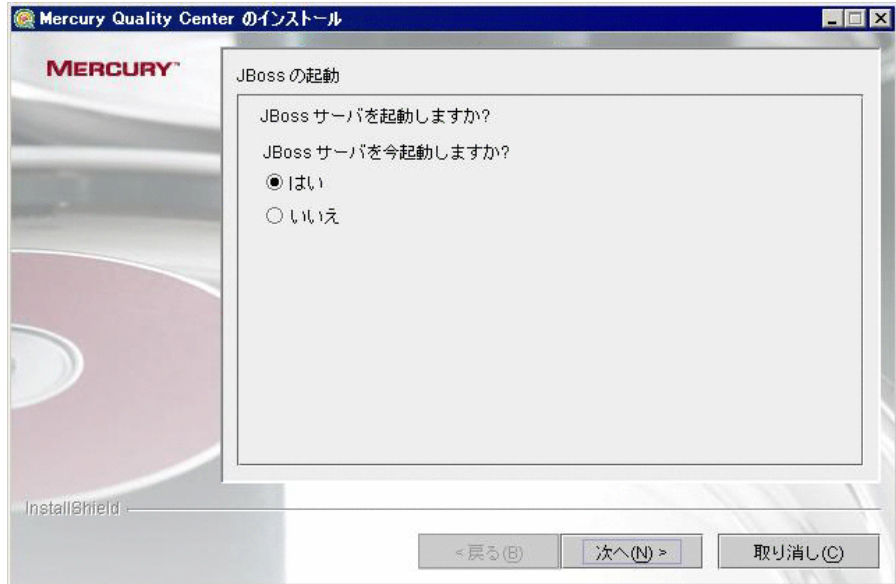


設定を確認または変更する場合は、[戻る] をクリックします。

設定を確定してインストール処理を開始するには、[次へ] をクリックします。  
インストール処理が開始されます。

22 標準インストールを実行している場合は、手順 23 に進みます。

カスタム・インストールを実行している場合は、[JBoss の起動] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のいずれかを選択します。

- ▶ **[はい]** : すぐに JBoss サーバを起動します。
- ▶ **[いいえ]** : 後で JBoss サーバを手動で起動します。

**[次へ]** をクリックします。

23 インストール処理が完了すると、[インストールの終了] ダイアログ・ボックスが開きます。**[完了]** をクリックします。

- 24 コンピュータを再起動するように求められた場合、後でコンピュータを再起動することもできますが、Quality Center の設定または使用前、または統合アドインなどの Quality Center の関連ファイルをインストールする前にコンピュータを再起動する必要があります。

---

**注：**再起動を求められたら、できるだけ早くコンピュータを再起動することを強くお勧めします。

---

- 25 Quality Center Checker を使用して、Quality Center サーバの主要コンポーネントが正しくインストールされていることを検証できます。詳細については、『**Mercury Quality Center 管理者ガイド**』を参照してください。

# 第 4 章

## 作業の開始

本章では、Quality Center のオプションとリソースについて紹介します。また、Quality Center の起動方法についても説明します。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ Quality Center プログラム・フォルダについて
- ▶ Quality Center サービスの開始と停止
- ▶ Quality Center の開始

### Quality Center プログラム・フォルダについて

Windows では、Quality Center セットアップ・プロセスが完了したら、次の項目が Quality Center プログラム・フォルダに追加されます（[スタート] メニューから開く [Mercury Quality Center] プログラム・グループ）。

オプション	説明
[Mercury Quality Center]	Quality Center アプリケーションを開きます。詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[Mercury Tours デモ]	サンプルのフライト予約 Web アプリケーションを起動します。この Web アプリケーションは、Quality Center のチュートリアル基礎として使用されます。詳細については、『Mercury Quality Center チュートリアル』を参照してください。
[Readme]	Quality Center に関する最新のお知らせや情報が記載されている、[Quality Center 最初にお読みください] を開きます。

オプション	説明
[Documentation Library]	Quality Center のガイドおよびリファレンスにアクセスできる、オンライン・ヘルプ・システムを開きます。これらはオンライン、PDF 形式、またはその両方で使用できます。
[Quality Center Checker]	Quality Center が使用する Quality Center サーバ・コンポーネントの多くをテストする診断ツールです。Quality Center Checker を実行すると、Quality Center へのアクセスに関連する多くのサーバ側の問題の原因を特定できます。詳細については、『Mercury Quality Center 管理者ガイド』を参照してください。
[Site Administration]	サイト管理アプリケーションを開きます。詳細については、『Mercury Quality Center 管理者ガイド』を参照してください。

## Quality Center サービスの開始と停止

本項では、Windows、Linux、および Solaris からの Quality Center サービスの開始と停止方法について説明します。

**Windows から Quality Center サービスを開始または停止するには、次の手順を実行します。**



システム・トレイで、Quality Center アイコンを右クリックし、[Start Quality Center] または [Stop Quality Center] を選択します。

**Linux または Solaris から Quality Center サービスを開始または停止するには、次の手順を実行します。**

- ▶ JBoss を使用している場合は、次のコマンドを実行します。

<b>開始 :</b>	< QC インストール・フォルダ > /jboss/bin/run.sh
<b>停止 :</b>	次のいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt; QC インストール・フォルダ &gt; /jboss/bin/shutdown.sh (またはコンソールで Ctrl+C を押す)</li> <li>• kill &lt; JBoss プロセス ID &gt;</li> </ul>

- ▶ WebLogic を使用している場合は、次のコマンドを実行します。

開始 :	< WebLogic インストール・フォルダ > /user_projects/domains/ < QC ドメイン名 > /startWeblogic.sh
停止 :	次のいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt; WebLogic インストール・フォルダ &gt; /user_projects/domains/ &lt; QC ドメイン名 &gt; /stopWeblogic.sh</li> <li>• kill &lt; Weblogic プロセス ID &gt;</li> </ul>

- ▶ WebSphere を使用している場合は、次のコマンドを実行します。

開始 :	< WebSphere インストール・フォルダ > /WebSphere/AppServer/bin/startServer.sh < WebSphere サーバ名 >
停止 :	< WebSphere インストール・フォルダ > /WebSphere/AppServer/bin/stoptServer.sh < WebSphere サーバ名 >

## Quality Center の開始

Quality Center を開始するには、自分のワークステーション上で Web ブラウザを使用します。

---

**注 :** Quality Center の複数のインスタンスを、同じブラウザ・プロセスを使用して実行することはサポートされていません。Quality Center の別のインスタンスを開くには、新しいブラウザ・プロセスを起動する必要があります。

---

Quality Center を起動するには、次の手順を実行します。

- 1 お使いの Web ブラウザを起動し、Quality Center の URL として、`http:// < Quality Center サーバ名 > [ < : ポート番号 > ]/qcbn` を入力します。

Mercury Quality Center のオプション・ウィンドウが開きます。



Mercury Quality Center のオプション・ウィンドウには、次のリンクが表示されます。

オプション	説明
[Quality Center]	Quality Center アプリケーションを開きます。詳細については、『Mercury Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[サイト管理]	サイト管理アプリケーションを開きます。詳細については、『Mercury Quality Center 管理者ガイド』を参照してください。



オプション	説明
[アドイン ページ]	Mercury Quality Center アドイン・ページを開きます。 詳細については、71 ページ「Quality Center アドインのインストール」を参照してください。
[最初にお読みください]	Quality Center に関する最新のお知らせや情報が記載されている、[Quality Center 最初にお読みください] を開きます。

- 2 [Quality Center] リンクをクリックします。Quality Center を初めて実行すると、次のファイルがコンピュータにダウンロードされます。

ファイル名	説明
<b>American.adm および Roget.adt</b>	スペル・チェック機能および類語辞典機能を有効にします。
<b>comp_type.ini</b>	ビジネス・コンポーネント・モジュールに含まれるさまざまなタイプのテストを有効にします。
<b>MerResourceLogger.dll</b>	ログ・ファイルの共通ビューを有効にします。
<b>OTAClient.dll</b>	Quality Center プロジェクト用の Open Test Architecture API が含まれています。
<b>OTAXml.dll および OTaReport.dll</b>	レポート機能を有効にします。
<b>QCClientUI.ocx</b>	Quality Center のユーザ・インターフェースが格納されています。
<b>SRunner.ocx</b>	VAPI-XP を有効にします。
<b>TdComandProtocol.exe</b>	メール・サービスと Quality Center との間の接続を有効にします。
<b>TDTmpl.tcf</b>	ドキュメント・ジェネレータ用のテンプレートです。
<b>test_type.ini</b>	テスト計画モジュールに含まれるさまざまなタイプのテストを有効にします。
<b>WebClient.dll</b>	Quality Center クライアント / サーバ通信用のゲートが含まれています。

ファイル名	説明
wexectl.exe	テストの自動実行を可能にします。
XGO.ocx	テスト・ラボ・モジュールの [実行フロー] タブを有効にします。

Quality Center が実行されるたびに、バージョン確認が行われます。新しいバージョンが検出されると、必要なファイルの最新バージョンがマシンにダウンロードされます。

Quality Center のバージョンが確認され、必要に応じてファイルが更新されると、Mercury Quality Center のログイン・ウィンドウが表示されます。

- 3 [ユーザ名] ボックスに、ユーザ名を入力します。
- 4 [パスワード] ボックスにパスワードを入力します。

5 前回作業していたプロジェクトに Quality Center が自動的にログインするには、[このマシン上で最後に使用したドメインとプロジェクトにログインする] チェック・ボックスを選択します。

6 [認証] をクリックします。Quality Center はユーザ名およびパスワードを確認し、ユーザがアクセス可能なドメインおよびプロジェクトを決定します。自動ログインを指定している場合は、Quality Center が開きます。

認証が失敗した場合は、ユーザ名とパスワードが正しいことを確認し、再度実行します。

7 [ドメイン] リストからドメインを選択します。標準設定では、前回作業していたドメインが表示されます。

8 [プロジェクト] リストからプロジェクトを選択します。標準設定では、前回作業していたプロジェクトが表示されます。

Quality Center のデモ・プロジェクトが Quality Center サーバにインストールされている場合、**QualityCenter\_Demo** プロジェクトを選択できます（[ドメイン] リストで **DEFAULT** を選択している必要があります）。デモ用プロジェクトには、サンプル要件、テスト、テスト・セット、テスト実行、不具合などが含まれており、Quality Center について学ぶことができます。詳細については、『**Mercury Quality Center チュートリアル**』を参照してください。

9 [ログイン] をクリックします。Quality Center が開き、前回のセッションで最後に使用していたモジュール（要件、テスト計画、テストのラボ、不具合）が表示されます。



# 第 5 章

---

## Quality Center アドインのインストール

Quality Center は、Mercury 製のテスト・ツールのほか、サードパーティ製の同期、バージョン管理ツールと統合できます。Quality Center と他のツールを統合するには、Mercury Quality Center の [アドイン ページ] から適切なアドインをインストールする必要がある場合があります。

---

**注：** Quality Center を他のツールと統合して使用する場合は、対象ツールがサポートされているかどうかを確認できます。[アドイン] ページで **[その他の Mercury Quality Center アドイン]** リンクをクリックし、適切な Quality Center 統合マトリックスを選択します。

---

Quality Center アドインをインストールするには、次の手順を実行します。

ヘルプ ▾

- 1 Mercury Quality Center のオプション・ウィンドウで [**アドイン ページ**] をクリックするか、Quality Center のメイン・ウィンドウで [**ヘルプ**] > [**アドイン ページ**] を選択します。[アドイン] ページが開きます。



次の Quality Center アドインが使用できます。

- ▶ [**Mercury Quality Center 接続**] : Quality Center と他のツールとの統合を可能にします。
- ▶ [**Mercury Quality Center システム・テストのリモート・エージェント**] : マシン上でシステム・テストを実行できるようにします。システム・テストでは、マシンのシステム情報の取得、マシンにおけるテスト実行状態のデスクトップ画像の表示、およびマシンの再起動を実行できます。
- ▶ [**Mercury Quality Center クライアント側セットアップ**] : ブラウザを使って Quality Center コンポーネントをダウンロードせずに、すべての Quality Center モジュールをクライアント・マシンにインストールできるようにします。
- ▶ [**その他の Mercury Quality Center アドイン**] : 追加のアドインをインストールできます。このページは、Mercury によって絶えず更新されています。これらのアドインには、Mercury のツールおよびサードパーティ製のツールとの統合機能が含まれます。

- 2 アドイン・リンクをクリックします。クリックしたアドインに関する追加情報のページが表示されます。[その他の Mercury Quality Center アドイン] リンクをクリックした場合には、[その他の Mercury Quality Center アドイン] ページが表示され、追加するアドインを選択できます。
- 3 アドインの使用方法については、アドイン・ガイド・リンクがある場合はこれをクリックしてください。
- 4 **[アドインをダウンロード]** リンクをクリックして、アドインをダウンロードおよびインストールします。画面上の指示に従います。





# 第 6 章

---

## IIS の設定の確認

Windows へ Quality Center をインストールした後に、IIS (Internet Information Server) コンポーネントで問題が生じた場合には、次の設定を確認します。

- ▶ IIS アカウント設定
- ▶ Quality Center 仮想ディレクトリの設定

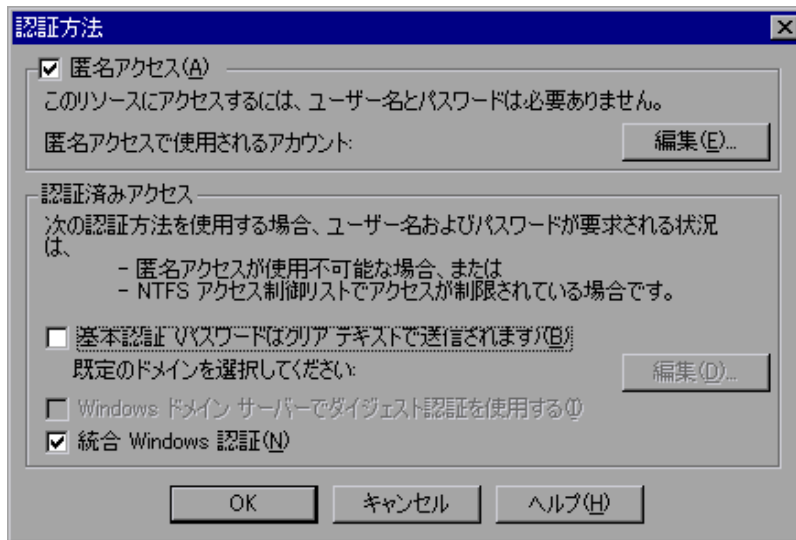
### IIS アカウント設定

Quality Center をインストールすると、IUSR\_ <コンピュータ名> というアカウントが作成されます。IIS はこのアカウントを使用して、ユーザが Quality Center を起動したときに、ユーザを IIS から Quality Center へリダイレクトします。

**IIS アカウントを確認するには、次の手順を実行します。**

- 1 インターネット・インフォメーション・サービス・マネージャを開きます。
  - ▶ IIS 5.0 の場合には、[スタート] メニューから [管理ツール] プログラム・グループを開き、[インターネット サービス マネージャ] をクリックします。[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウが開きます。
  - ▶ IIS 6.0 の場合には、[スタート] メニューから [管理ツール] プログラム・グループを開き、[インターネット サービス マネージャ] をクリックします。[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウが開きます。

- 2 左の表示枠にあるツリーから、Quality Center 仮想ディレクトリのある場所を選択します（必要に応じて、ツリーを展開します）。この仮想ディレクトリは、Quality Center のインストール時に選択された IIS Web サイトです（たとえば、**既定の Web サイト**）。詳細については、第2章「Quality Center のインストール」を参照してください。
- 3 Quality Center 仮想ディレクトリ（標準設定では **quality\_center**）を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。**[quality\_center のプロパティ]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 **[ディレクトリ セキュリティ]** タブをクリックします。
- 5 **[匿名アクセスおよび認証コントロール]** セクションで、**[編集]** ボタンをクリックします。**[認証方法]** ダイアログ・ボックスが開きます。



[認証方法] ダイアログ・ボックスには、IIS がユーザ・アクセスを認証するのに使用するユーザ・アカウントを設定する3つの方法が表示されます。[匿名アクセス]、[基本認証] および [統合 Windows 認証] という3つの方法です。

▶ **[匿名アクセス]** :

[匿名アクセス] を選択すると、ユーザが < Quality Center サーバ > %qcbn, または < Quality Center サーバ > %sabin にログインしたときに、IIS から Quality Center へ接続がリダイレクトされます。

このアカウントを確認または変更するには、[匿名アクセス] セクションの [編集] ボタンをクリックします。IIS 匿名アクセスのユーザ・アカウントは IUSR\_ <コンピュータ名 > です。

▶ **[基本認証]** :

[基本認証] を選択すると、ユーザが < Quality Center サーバ > %qcbn, または < Quality Center サーバ > %sabin にログインしたときに、IIS は Windows のドメインに基づいてユーザを認証します。

基本認証用の Windows ドメインを確認するには、[基本認証] チェック・ボックスをオンにし、[はい] をクリックして確定します。次に、[基本認証] セクションの [編集] ボタンをクリックします。[基本認証ドメイン] ダイアログ・ボックスが開きます。[ドメイン名] ボックスにドメイン名が定義されている場合は、クライアントは当該ドメインに属する任意のユーザ・アカウントを使用して IIS にアクセスできます。ドメインが定義されていない場合には、ローカル・ドメインが使用され、クライアントは、任意のローカル・ユーザ・アカウントを使用して IIS にアクセスできます。

[基本認証] が選択されていると、Web ブラウザは、ユーザ・アカウントを暗号化せずにネットワークを通じて送信します。

▶ **[統合 Windows 認証]** :

統合 Windows 認証方式は、イントラネット環境に最適です。IIS は、Windows ドメインに基づいてユーザ認証をするのに、クライアント・マシンの現在の Windows ユーザ情報を使用します。

## Quality Center 仮想ディレクトリの設定

標準設定の仮想ディレクトリが正しく設定されていることを確認します（標準設定では **quality\_center** です）。

**Quality Center 仮想フォルダの設定を確認するには、次の手順を実行します。**

- 1 インターネット・インフォメーション・サービス・マネージャを開きます。
  - ▶ IIS 5.0 の場合には、[スタート] メニューから [管理ツール] プログラム・グループを開き、[インターネット サービス マネージャ] をクリックします。[インターネット インフォメーション サービス] ウィンドウが開きます。
  - ▶ IIS 6.0 の場合には、[スタート] メニューから [管理ツール] プログラム・グループを開き、[インターネット サービス マネージャ] をクリックします。[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウが開きます。
- 2 左の表示枠にあるツリーから、Quality Center 仮想ディレクトリのある場所を選択します（必要に応じて、ツリーを展開します）。この仮想ディレクトリは、Quality Center のインストール時に選択された IIS Web サイトです（たとえば、**既定の Web サイト**）。詳細については、第2章「Quality Center のインストール」を参照してください。

- 3 Quality Center 仮想ディレクトリ（標準設定では **quality\_center**）を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。**[quality\_center のプロパティ]** ダイアログ・ボックスが開きます。**[仮想ディレクトリ]** タブで、次のオプションが設定されていることを確認します。

IIS 5.0 の設定 :	IIS 6.0 の設定 :
<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[読み取り]</b> がオンになっている。</li> <li>• <b>[スクリプト ソース アクセス]</b>, <b>[書き込み]</b>, <b>[ディレクトリの参照]</b> がオフになっている。</li> <li>• <b>[アプリケーション名]</b> ボックスが有効になっていて, <b>[削除]</b> ボタンが表示されている。</li> <li>• <b>[実行アクセス権]</b> リストで <b>[スクリプトおよび実行可能ファイル]</b> が選択されている。</li> <li>• <b>[アプリケーション保護]</b> リストで <b>[中 (プール)]</b> が選択されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>[読み取り]</b> がオンになっている。</li> <li>• <b>[スクリプト ソース アクセス]</b>, <b>[書き込み]</b>, <b>[ディレクトリの参照]</b> がオフになっている。</li> <li>• <b>[アプリケーション名]</b> ボックスが有効になっていて, <b>[削除]</b> ボタンが表示されている。</li> <li>• <b>[実行アクセス権]</b> リストで <b>[スクリプトおよび実行可能ファイル]</b> が選択されている。</li> <li>• <b>[アプリケーション保護]</b> リストで <b>[DefaultAppPool]</b> が選択されている。</li> </ul>

- 4 **[OK]** をクリックして, **[quality\_center のプロパティ]** ダイアログ・ボックスを閉じます。



# 第7章

---

## Quality Center のカスタマイズ

Quality Center サーバ・マシンに格納されている **setup\_a.ini** ファイルを編集することで、Quality Center モジュールの名前と、[ツール] メニューおよび [ヘルプ] メニューをカスタマイズできます。

**Quality Center をカスタマイズするには、次の手順を実行します。**

- 1 サーバ・マシンで、**setup\_a.ini** ファイルを開きます。このファイルは、次の場所にあります。
  - ▶ **JBoss** : <インストール・ディレクトリ>¥<サーバ>  
¥server¥default¥deploy¥20qcbin.war ファイル。
  - ▶ **JBoss 以外** : 初期設定ではアプリケーション・フォルダにあります。ファイルはこのフォルダから別の場所に移動できます。
- 2 ファイル内の [File\_2] セクションを探します。
- 3 Quality Center モジュールの名前の変更、削除、または順序の変更を行うには、`param_RegisteredPages=` 行に記載されている標準設定の名前を変更します。`param_RegisteredPages=` 行のエントリの構文は次のとおりです。  
<コンポーネント名> , < CLSID > [! <コンポーネント名> , < CLSID > ...]

---

注 : [サイト管理] の [サイト構成] タブで **REPLACE\_TITLE** パラメータを追加することで、不具合モジュールの名前もカスタマイズできます。詳細については、『**Mercury Quality Center 管理者ガイド**』を参照してください。

---

- 4 [ツール] メニューに表示される一連の項目のリストの変更、削除、または並べ替えを行うには、`param_RegisteredTools=` 行に記載されている標準設定の名前を変更します。`param_RegisteredTools=` 行のエントリの構文は次のとおりです。  
<ツール名> , < CLSID > [! <ツール名> , < CLSID > ...]

- 5 [ヘルプ] メニューに表示される一連の項目のリストの変更、削除、または並べ替えを行うには、`param_RegisteredHelp=` 行に記載されている標準設定の名前と URL を変更します。`param_RegisteredHelp=` 行のエントリの構文は次のとおりです。

<ヘルプ名> , < URL > [! <ヘルプ名> , < URL > ...]

[ヘルプ] メニューの2つの項目の間に区切り線を作成する構文は次のとおりです。

<ヘルプ名> , < URL > !-,! <ヘルプ名> , < URL >

---

注：[ヘルプ] メニューの最初の2つのメニュー項目 [このページのヘルプ]、[文書ライブラリ] と、最後のメニュー項目 [Mercury Quality Center のバージョン情報] の移動や変更はできません。setup\_a.ini ファイルには、これらに対応するエントリはありません。上記の手順は、これらの間にあるメニュー項目だけを対象とします。

---

- 6 war ファイルを再ビルドします。
- 7 war ファイルを再配備します。配備処理中は Quality Center を使用できません。



# 第 8 章

---

## Quality Center のアンインストール

サーバ・マシンから Quality Center を削除することが可能です。Quality Center をアンインストールしても、プロジェクトは削除されません。Quality Center へのアクセスに使用されたワークステーションから、Quality Center コンポーネントをアンインストールすることもできます。

本章では、次の項目について説明します。

- ▶ Windows からの Quality Center のアンインストール
- ▶ Linux または Solaris からの Quality Center のアンインストール
- ▶ ワークステーションからの Quality Center コンポーネントのアンインストール

### Windows からの Quality Center のアンインストール

本項では、Windows サーバ・マシンから Quality Center をアンインストールする方法を説明します。

**Windows から Quality Center をアンインストールするには、次の手順を実行します。**

- 1 アプリケーション・サーバが起動していることを確認します。
- 2 Mercury Quality Center アンインストール・ウィザードの起動は、次の手順で行います。
  - ▶ [スタート] > [設定] > [コントロールパネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択し、画面の指示に従います。
  - ▶ Quality Center のホーム・ディレクトリ ([ <ドライブ> ]:\%Mercury Interactive%\Quality Center) へ移動します。\_uninst のサブディレクトリで、uninstall.exe をダブルクリックします。

- 3 [次へ] をクリックします。画面に表示される指示に従います。

## Linux または Solaris からの Quality Center のアンインストール

本項では、Linux または Solaris のサーバ・マシンから Quality Center をアンインストールする方法を説明します。

---

**注：**Quality Center をアンインストールするには、root ユーザである必要があります。

---

**Linux または Solaris から Quality Center をアンインストールするには、次の手順を実行します。**

- 1 アプリケーション・サーバが起動していることを確認します。
- 2 システム・プロンプトに対して次のコマンドを入力します。**`/ <ディレクトリ> / < Quality Center のディレクトリ > /_uninst/uninstall.bin`**  
Mercury Quality Center アンインストール・ウィザードが起動します。
- 3 [次へ] をクリックします。画面に表示される指示に従います。

## ワークステーションからの Quality Center コンポーネントのアンインストール

クライアント・コンピュータで Quality Center を実行すると、クライアント・コンポーネントがワークステーションにダウンロードされます。クライアント・アンインストール・ユーティリティを使用して、ファイルおよびレジストリ・キーを含むすべての Quality Center クライアント・コンポーネントを削除できます。このユーティリティのダウンロードについては、TestDirector for Quality Center Knowledge Base (US サイト : <http://support.mercury.com>) を参照し、Problem ID 41804 を検索してください。

ユーティリティの実行後にワークステーションを Quality Center へのアクセスに使用した場合、必要なすべてのコンポーネントが Quality Center サーバからダウンロードされます。